光

第八號

大正十一年一月

同人　懺悔報恩の奉仕者

祈願　不二の光明によれる生活

費用　供養されたる浄財

□此岸より彼岸へ……西田天香

□性欲のなやみ……松下吉衞

□牛島の漁村から……藤井悌

□梟の聲……不相子

□導かるる者の心……池田龍一

□眞の光……中村春二

□朝の鳥……三石勝五郎

□或る旅人……吉田暎二

□熊本より……飯島象太郎

□一燈園だより……M N 生

□返照錄……遠近兄姉

一燈園◇宣光社

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

光明祈願（暫定）

不二の光明は宇宙に遍滿する陽光の如し。物あり、之に觸れて色々の光を發す。光明祈願は即ち起稿者識界の現象に過ぎず。添すべく、削すべく、正さゞる可らず、改作また不可なし。暫定と名づくる所以なり。

不二の光明によりて新生し、許されて活きん。

我等は先づ不二の光明によりて復活新生し、神に委ね佛に養はれ、他に障りなき生涯を送らむことを期す。

諸宗の眞髄を禮拜して歸一の大願に參ぜん。

内外古今諸宗の眞髄を禮拜すれば、歸一の大願は正に左の如くなる可し。

通願　皆倶成ニ就大圓覺一

別願　將ニ來世界眞平和一

別に一宗を立てず、單に一宗に偏らず、古今聖者の光を仰ぎ德を頌し、その遺されたる事業を成就せんことを期す。

懺悔の爲に奉仕し、報恩の爲に行乞せん。

世間一切の罪惡苦患、何人かその責を脫るゝことを得べき、願くば常に懺悔の心を持して十字街頭に奉仕し、菩提心によりて行乞し、以て法界成就の本願に副はんことを。

法爾の清規に隨ひ、世諦を成ぜん。

天眞法爾の戒相に則り、六度の行願に隨ひ、治生產業に即して眞道を行じ、永久眞平和を將來すべき生活法を實證し以て在家俗諦を成就せんことを期す。

即ち天華香洞に歸り無相の樂園に逍遙せん。

達觀すれば實にも此世は寂光の淨土、妙樂の天國、文明の隆興も進化の事象も乃至清規戒行も、此の見地よりすれば則ち一の遊戲三昧に過ぎず。憾むらくは箇中の消息、もとより言辭の勞し得る限りにあらざるを。暫らく此の實相に名けて天華香洞といふ。

天華香洞の門、假りに名けて一燈園となす。道に志して尙ほ自ら立つ能はざるもの、乃至老、病、幼者等の爲めに設けられたる一の化城とも見る可し。その存立は喜捨の淨財に成り、在園はその清規によりて許さる。

天華香洞に立ち、信託を受けたる財物事業の整理經營等に從ふを假りに名けて宣光社といふ。宣光社の目的は世間の執迷、紛爭、葛藤を根絕し、以て齊家、治國、平天下を期するにあり。

天華香洞と一燈園と宣光社と、三位にして一體、通じては即ち無相不二。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

此岸より彼岸へ

西田天香

此の間こちらに參つて高等女學校でお目にかゝつたと思ひます。あれから栃木へ一泊しまして、鹿沼の日本麻絲株式會社へ七人程で托鉢に行つて四五日するうち、こちらから來いといふのでやつて來ました。

正直をいへば實は今度はこちらには來たくなかつた。集まつてゐられるのは學務委員や處女會の幹事さんや學校の職員方のやうでありますが、このうちの多くの方は別に是非何が何でも、今こゝで私をひつぱり出してしやべらす、又一つ叩いて見ようといふ程の眞劍の要求を感じてゐなされないやうだ。そうすると話が本業でもない私が、こゝでこんな風な話しぶりをいたすのも變なものである。もつと切迫つまつた問題で私を呼んでござる人は他にも大勢ゐられる。それをかまはずにこんな所で何かわからぬことを申したとて仕方はないともいはれます。然し又ひるがへつてこれもまた何かの因縁を結ばせていたゞけることで、どうせ私は光任せに、あちこちからよばれるまゝに行けばよいのですから、それにこの集にどんな方がゐられるかもわからぬし、よし今は何もなくともこの中にあの時こんなことをいふものがあつたといふことを思ひ出されて、將來何か問題に打つつかられて必要の時いつなりといらつしやることがあるかもしれぬと、そんなことも考へられるので少しばかりこれからしやべらせてもらひます。

然し私は本來しやべるのが商賣ではないので、私等はたゞ貧弱ながら私等の是と信じたことを行じさせてもらふだけなので、こんな所で物を言ふのはめんどうな、畑違ひのことで何をいつてよいのか困るのでありますが、一番早くてわかりのよいことはやつて見ることなので、私等のいひますことを京都では同人達が毎日やつてゐられます。私もそこでいつしよにやつてゐるのが一番落付くのですが、全體しやべることは決して物の本體にはふれることではない。丁度電燈を消しておいてその說明をしてゐるやうなもので、いくらくどく說いても一寸スヰツチをひねつて見るにかなはないのです。私共のやつてゐることをいくらしやべらせて見てもやはりそんなものです。それと私はいつもそう思ふが、かうして物を言

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

ふのに實はハラ〳〵してゐます。こんなことをいつていゝのかしらん、この位はわかるかしらん、又あんまりハツリキいひすぎてもいくまいとか何とかこちらからいろいろ加減して氣をもんでゐます。これも皆樣の要求なり、問題なりがハツキリしてゐない故で、あてもない所で漠然とあたりさはりのないことをいはねばならぬ。それもかなりつらいことなのです。

全體私共の話をきく人にも、もうそれをきかねばならなくなつてゐる人もある。一例を申すと東京のある女郎屋の亭主さんですが、まだ若い方で、漱石商賣柄だけあつて「懺悔」と名のついた本は西洋のものと日本のものとを問はず皆よんでゐるといふことであるが、その人が今年の夏避暑に行かうとして出かけに、本屋で偶然あの「懺悔の生活」を見て、どうせ六なものでもあるまいと思ひながら買ひこんで汽車の中で讀み始めたが、さあよんで行くうちにやめられなくなつて、とう〳〵其儘東京へ來て、もう避暑へは行くことは出來なくなつたからといつてその儘この道の研究に沒頭されてゐられる方等もある。これは男の方であるが又ある女學生が私を京都へたづねてくれていろ〳〵と問題をもつて叩いてくれたことがあつた。私もずゐ分その切迫つまつてゐるらしい樣子につりこまれて可成りきつく申したことでしたが、いろ〳〵して翌朝になると、だまつて私の前に白い紙に包んだものを出された。何ですときくと、實におそろしいことでしたが、これは毒藥です。實は私はもう死なうと決心して、今日にしようか明日にしようかと思つてゐるうち、一燈園の話をきいたので一度伺つてからと思つて昨日出て來たのですが、本當におそろしいことでした。昨夜の話で救はれました。もうこんなものはいりませんから。」といはれたので私もびつくり致しました。これ等の方はつまり私共の話をきかねばならなくなつてゐた人々でありませうかと思ひます。

全體私等を本氣で叩いて見ようといふ人はこの四五年まではそう多くなかつた。この世界大戰が終つてからです、ボツボツと本氣で訪ねて下さる方が出て來ましたのは、ずい分いろ〳〵な方が見えるが、皆それ〴〵深いなやみを持たれてゐられる、それによつて私は今、人類が世界的に產みの苦しみになやんでゐられるのではないかと思ひます。とにかく今迄の主義や學校ではおさまりがつかなくなつて、やれ改造や解放のとやかましいことではあるが、それらの物で果してよく徹底的の解決がつくかどうか疑問であります。一體それ等のすべてがよつて立つ根本に一つの誤謬がありはせぬかと私には思はれるのです。

それは卽ち權利思想である。お互に權利を主張し合ふ。權利として何事も要求し合ふといふ行き方ではないかと思はれます。勞資問題、國際問題、小にしては一村一字の問題もそれではないかと思はれます。一體この權利といふものが本當に人間にあるべきものかどうかが大問題であり、權利の本質

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

何ぞやといふことは可なりな研究問題であると思ひます。私はつきつめて行くとそれ自身のうちにおさまりのつかぬ不徹底な所がありはせぬかと疑つてゐるのです。

とにかく今の世界にこの權利思想が生んだ大きい衝突が二つある。一つは國と國との横の利害問題であり、今一つは階級的の資本家對勞働者の縱の爭ひである。言ひ方は分配の公正とか、國際的正義とかであるが、やはりよく見ればその根は權利思想である。まだ外に男女の間にも、女權擴張てなものもあつて、時勢がこうなつてはいづれ我も我もと權利を主張することでせうが隨分困つたことになりはせぬか。これで押して行つたのではいくらしてもとても整理は覺束ないやうに思はれる。

この權利思想は今の商人には最も露骨にあらはれてゐる。他の社會では根源は同じでも人情とか義利とかいつたものもあるが、商賣にかけては全くそれがないから實に露骨なものである。私も根が近江の商人でしたからこのことはよくわかるがそりや實にひどいものである。「とにかく商賣だけは別だから」といつて金のためには隨分しのびないことを平氣でやる。

一體この權利といふものは、人にをさへられてゐるから自分もをさへずにはゐられなくなるので、何も權利を主張する一人一人の誰がわるいといふわけにはいかぬ。よく小供のする將棋倒しといふ遊びがありますね、あの將棋のコマをバンの上にならべて立てゝ一つを一寸おすとベタベタに倒れて一番のしまいのが又最初のをおさへる。權利主張といふものは丁度あれです。皆でおさへられてそして皆をおさへてゐるのです。將棋のコマはいふでせう。私は少しもお前さんを抑へたくはないんだけれ共後からうんとおさへられてゐるさかいに仕方がないのだ」と。さあこれですよ。ある商人はいふ「私は何も貴方を苦めたり、權利主張ばかりはしたくないが、私がとても大きな力でおさへられてゐるさかいに仕方なくやるのぢや。わるかつたら私の上のおさへてゐる奴をうらんでくれ。それでなければ私の店が持たぬ」と。これがこの人達の論理でせう。なる程自分一人ではどうにもならぬのである。この水ももらぬきびしい組織の内で、少し位な人間らしいことをやつても燒け石に水である。却つて惡くなつてもよくはならぬが。このどうでもならぬことをそのまゝにつゞけていつたらどうなるのか。恐ろしいことであります。誰もがもがき苦しんでゐるのです。けれ共皆その苦しみを整理する方法を持たぬらしい。こゝで私共の立場を少し見ていただきたいことになるのです。私共はこのどうにもならぬものを整理する。しかもハツキリとした切れ味のものを今やらして貰つてゐるわけなのです。(かうした云ひ方が謙遜の德を傷けないやうに祈ります)

ではそれは今迄誰も知らず、何人もやらなかつたものかといふと、決してそうではない。流石に先覺の祖師開山達はそ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

こをハツキリ行ぜられてゐられる。さうした先覺は誰を見ても皆同じ所がある。いふ事はいろ〳〵かはるが、それは何物にもおさへられぬ生活である、つまり金の力とか、權利とかをけとばした生活である。今迄の生活では他人におさへられでゐるから人をおさへねば我身が立たぬ、我が身を立てようとすれば人を抑へねばならぬ。新しい生涯では何物にもおさへられぬで、人々もおさへず人とも爭はずともすむ。權利はどこかへ行つて、たゞ平和な世界安隱な國土が開ける。

こゝに腰を据ゑたら動きやうのない大磐石の生活である。故人も「道心に衣食あり」とか、「學ぶや祿其の中にあり」とか申されてゐますが、然し今の利巧な人達は、そんなことはみんな昔のことで、この生存競爭のはげしい現代には通らぬといはれる。通るか通らぬかやつて見られぬのであるが、てんで問題にせぬ。そして先立つものは金の問題であるときめこんでゐる。

私の親父もやはり近江の商人でしたから、身代持も上手に忠實に働き、奉公人はかはいがり、人の世話もよくしまあとにかく立派な人でして、私もいろ〳〵感服してゐますが、唯一つ惜しいことがある。それは私の少さい時からよくいはれたことですが「萬能者一つ知らいで橋の下だぞ」といふのです。その一つは金の事ぢや、身代持ちの事ぢやとよくいはれる。これはどうも惜しいが間違ひは間違ひであつたと思ひます。よく見れば親父ばかりでなく、世の中は皆こんな所である。たとへにも『地獄の沙汰も金次第』といふが、とかく金さへあれば何でも出來る、金々々といふやうになつてまるで主客轉倒して、どうしたら人よりよけい金がもうけられるといふことばかりに頭がむいて來て、さては前にいふ生存競爭の奪ひ合ひ、權利主張の倒し合ひで四方八方けがだらけであります。

新らしい生活は第一にこゝに着眼がいる。爭はぬ生き方といへば、金の支配をうけぬ生活、金をもうけなくともすむ生活でなくてはならぬ。これを先覺のお祖師さん方は皆立派にやつてゐられるのです。

キリストは弟子に『汝等何ぞパンのことを思ひわづらふや』といはれ、たしか大燈國師も求道者に「肩あつて着ずといふことなく、口あつて食はずといふことなし」と教へられてゐる。其他古來の先覺の師は皆このことをハツキリやつてゐられる。

一燈園生活もここの無所有といふことから始まる。何物も持たぬ生活では何物にもおさへられず、誰とも爭ふ要がない。此處に來る時は如何な難問もきれいに整理出來るものゝやうである。私共の言葉ではそれを淨財に生きると申しますが、お出家さん方の供養によつて養はれるのと精神は一つであるつもりです。多分道元禪師と思ふが、道心の出家者は斷じて邪命食に養はれてはならぬと教へられて、その邪命食でないものが三つあげられてある。一つは山間の木の實である。これ

は誰のものでもないからよろしいとされてある。次は信施である、清い供養でのことである、之はわけても與へる方がいたまぬのだからよろしい。三番目は乞食せよといはれてゐる。これは下さるものを感謝してうけるのだからよろしい。この三つが淨財であるといはれてゐる。可成りハツキリした教へ方です。

とにかくもかうして金の支配はうけぬ生活といふことはどの祖師方にも一致した道であり、それが生活の根本であつたのだと思ひます。私共はそれを勞働化實務化して托鉢を行ぜさせて貰つてゐる。何なりと仕事をさせて頂いて、喜んで下さるもので、先きがいたまぬ道で清い供養を禮拜してうけて生かさしてもらふのであるが、ここに來て始めて一切の難問がとけるカギを見出した次第であります。一々例を擧げては限りはないが「懺悔の生活」にも少しかいてあるが、最近もある女學生が來て、クリスチヤンでしたが、どうもバイブルに教へてあることゝ、日常の生活がぴつたりせぬので信者だとはいつても何やら落付かぬと告白されました、で私はすぐ「では馬太傳の五章から六章をおよみ下さい。就中六章の二十五節から三十節を」と申しますと、すぐよんでくれましたが、どうもこういふことはかいてあるだけで自分には出來てゐないのでよくわからぬといはれる。尤もなことゝ思つて、ではいつしよに托鉢して下さいといつて、何だつたか半日程托鉢してもらつてから又先きの所をよんで下さい とたのんだ。すると今日はよくわかりましたと答へられて大へん喜ばれた。

凡そかうした道は從來お出家さんにのみ許された清い生活とのみ思はれてゐたやうであるが、これを在家のまゝで行きたいといふのが私等の願なのです。こゝはお出家さん方にもよく研究して頂きたいことですが、この道は出家在家を通じて一切を救ふ唯一つの道ではないかと思はれるのです。私等は別に何宗とも何教とも名のらない。すべての宗教に通じて根本の祈禱を成就したいだけの願に立つてゐるのです。京都の一燈園ではいろ〳〵な宗旨のお出家さんも見える、キリスト教の信者も、牧師の方等も見えて一所にゐられる。ナムナミダ佛と、アーメンとがいゝことに一つになつて行く。全く奇妙ですが決して不思議ではない。各宗共通の願は本當の平和の世界を現ずるにあるのでせうから、そのさはりになるものを整理して行く私共の態度は少くも御業の一部に微力を提げてゐることゝ信ずるのです。

又思想の方面を眺めましても、歐米から、何だかんだといろ〳〵な思想が入つてくる。危險思想とか何とかさはぐが、それをどうして防がうといふのか。私はとてもむづかしいと思ふ。西洋の思想には權利觀念といふものが根深く喰ひ入つてゐるやうに見える。こゝは私はこの東洋の「空」の思想を取り入れて整理せねばなるまいと思ふ。その統一の任に當るものは蓋し我日本ではあるまいかとは識者の意見であり又私共

の拘泥でなければなりますまい。こゝらに日本の文化的使命がありはせぬか。金や軍艦も必要には必要だらうが、かういふもので競争しようとて日本の勝味は疑はれもするし、第一そんなことをする價値があるまい。

尤も同じやうな傾向は世界にまるで無いではない。一つをいふとバハイズム等はそれである。これも實行が主で何教の信者でもかまはぬといふが、私もかつて一燈園でその一人に訪づれられたことがある。たしかリシアールさんとか云うたと覺えてゐます。河上博士が通譯の勞をとられた。お互ひに直接には言葉が通じないのであるけれ共精神は早くも一致したうれしいものである。向ふの人が片手をあけてひろげて五本の指一つづゝを指してしまいに掌でおさめて、わかつたかといふ。私はよくわかりましたとうなづいた。どういふことなのか、世界中にはあれこれといふ風にわかれて教があるがもとを尋ねれば皆一つである。人類は兄弟だといふのです。簡單なことだがよくわかつてうれしい。マダム、ゴルドンなども世界の宗教は結局一つだといふことを研究されて、京都に來てゐられる間一燈園にもしばらく滯在された。又近く獨逸あたりでもそんな風潮が見えると聞きました。以上で私等の生活が今の思想問題とか、世界難解の問題にとつてどんな關係に立つかを輪郭だけ申したのですが、こゝに來て小なる私等の祈禱も世界大の問題にふれてゐるわけであります。

さて私共はこの生活を懺悔奉仕と此頃呼び習はしてをりますが、その內容はと申されると、恥しいが私の身の上話からして行くのが一番無難かと思はれまする。これを今、詳しく申しまするわけに參りませぬが、「懺悔の生活」の「轉機」といふ所にかいてあるからあれをおよみ下さると少しはわかると思ひます。一體私は前申す通り近江の長濱の生れですが、中學へも行かずに、故あつて北海道に渡つて事業をしたのです「それは亞麻の栽培で私の後援者として國の方から資本を出して共同經營で私がその支配人といつた樣でした。大勢の小作人の人夫をやとつてやつてゐましたが、そのうちに大問題に打つつかりました。といつて普通にはあたりまへにすごされる所ですが、何か私はそのまゝにはすまされなかつたのです。それは今なら勞資問題といふわけですが、かなり露骨なあさましい權利の主張し合ひであつた、私は少し神經質であつた爲にこれを大問題としました。あたり前ならそれ位なことはかる〱と長びかしてやりくつてゐるうち何かうまい所ですつぽりぬける所もあるのでしたらう。私のその頃の連も今では成金とか代議士とかになつてゐますから、もし私がそんなに神經質でなかつたら今頃は多分代議士位になつて威張つてゐたことでせう。然し思想的に潔癖だつた當時の私にはそれが出來なかつた。小作者のいひ前に同情すれば資本家に利子は拂へぬ結末となる、資本家の喜ぶ利益を見れば眼前に苦しむ小作者を見殺しにせねばならぬ。私にはそのどつちも出來ぬが、何とかせねばならぬ。兩方からせめられて進退谷

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

つた。両方立てれば身がたゝぬといふが、私の一身はいつすてゝもよいが、この大問題の徹底的の整理方法はないものか誰も爭はずして平和のうちに生きる道はないのかと考へこんだのです。

最初事業をやるに大體二宮先生の報德の敎に從つて經營をしたのでしたが、御承知の通りあれには四つのことがあげて敎へられてある。そのうちの三つ、勤勉儉約分度まではどうかかうか曲りなりにも實行出來たつもりであるが、殘る一つの推讓の德がどうでも出來ぬ。ここが例のお互ひにおさへつゝおさへられて權利關係の組織だからであります。事實商賣上で推讓の德を實行したら忽に利用されてつぶされてしまひます。そこでいろ〳〵もんでもんだ揚句遂に「資本とは何ぞや」「價格とは如何」といふ根本問題に到達したのでした。當時、經濟學界の一權威——神戶高商敎授——がやはりこの價格論で行きつまつて當時經濟原論起稿の筆を投じて長大息されたときゝますが、とにかく私も眞劍に必死ともがいてその解決のキーを探つて行つたのでした。

これが私の新生涯を生む動機でしたが、遂に事業を速に殘して國へ歸つて、一先づ自分の責任のものはキレイに身をすてゝ解決して、さあ、これからどうするかといふことで、町はづれの愛染堂に行つて坐りこんだのです。その時は文字通り私は必死であつた。この解決がつかぬうちは斷じて立つまいと力んで坐つたのです。

丁度三日目の朝、ふと赤兒の泣く聲を聞いた。思へばこれが光の聲であつたのでせう。赤兒の泣く聲は今まで何度かきいたに違ひないが、何時もなら常の樣にきゝながすのであつたのに、その時はインスピレーションを感じさせました。あの赤兒は多分は乳がほしいとか何かの要求があつて泣くのであらうか、其の母はけさ飯たきか何かで忙しく見てやれぬが乳をはらして飲ましたいと思つてゐるのであらう。そしてその乳は誰のものでも自然とその兒に授けられてあるので、それをのんで育つことは少しも生存競爭の種子にはならぬ。そこで私の氣のついた事は、「よし自分も一つ赤兒のやうに泣いてみやう」といふことでした。勿論大人の私は聲を出しては泣けぬが、何かのある所まで自分の力で自分を運ぶことはよからうと思つて坐り込んで三日目で立ち出して、その日は道の輪立にこぼれた米粒を一握りひろつて知人にたのんで三バイ程のかゆを作つてすゝらして貰つた。そしてまた坐つて。その次の日はもう米の粒はなかつたが、ある大へん懇意にしてゐた家の門まで來ると、中からそこのおかみさんが、出て來て「入れ」といふ。ハイと答へて入らしてもらつたが、朝食はといふので、まだですと返事すればではとじつてすゝめられたが、私はそこで今は忘れたがいろ〳〵な言葉でいろ〳〵と註文やら、何やらギゴチナイくどいことをくり返して私に下さる爲めにお家のものが少しでもへつたといふやうではいたゞけぬといふこと等をいつたやうだつたが、そのおかみさん

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

が「どんなことでもするからたべて下され」といはれました尤もその家は夫と長男をなくした未亡人一人主人の可なり私をたよりにして居て何くれと相談にあづかつてゐたのでした。下女の下に坐つてお釜の底のおとしをいただいた。おいしいものです。もう腹も十分になつた。すると人間は妙なもの、ぢつとしてはゐられぬ、何か用はと思つて裏へ行つて庭を掃いたり、そこらを片附けたりしてその日は終へた。そこで乞はるゝまゝにその夜はそこの一番下の室に休ませてもらひ翌日も又その家の仕事を手傳つた

是が托鉢の始めでした。かうして大きい家なので四五日もそこにゐましたが、そのうちに意外なことが出來て參りました。それはその日のみそかの晩だつたと覺えてゐますがあの邊ではよくそばを食ふ習慣であつたので、その晩は是非もといふので、座敷へ上げられてそばの御馳走にあづかりました。持つて來たのを見ると碗の底に卵の割つたのが二つかくされてあつた。私はそれを見て泣いた。あゝこんな私をかうまで大事にして生かして下さるのか、もつたいないことゝ拜んで頂いたが、やがてそれが終ると、女主人が出て來て「天香さん、私の家がすつかりかはつたのがわかりませんか。まあ見て下さい。これで私の家はもう安心です。實は恥しいが女の腕一つ故、自然人からも、傭人等からもうとまれ馬鹿にされてずい分つらいこともあり、その上商賣は思ふやうに行かず、このまゝで行くとこの家はつぶれる所でした。しかしもう大丈夫です。あなたのおかげで家中の氣分がまるで變りましたこれでこの家も立ちます。」と思ひがけない挨拶に一時は驚いたが、さても不思議よ、私一人が仕方がなくして、身をすててかうして生かしてもらつた生活が、すさんだ人の心にやはらかな光と落付きを與へ、倒れかけた家がもう大安心だとは、何といふ大きい力なのか！ 勿論これは私のやつた仕事ではない。私は少しも知らないのだ。知らない間にそういふ大變化が内に起つたとすれば、實に疑ひやうのない偉大な力である。こゝでいろ〳〵と氣がついて、なる程この赤兒の泣くにも等しい少しも無理な要求や爭ひのない全く自然な大磐石の生活はこれだつたと考へついた時、おぞましいが「我れ世に勝てり」とキリストが叫んだ感じも幾分は味はれたことでした。そんなことから歩み始めて約十八年、負け勝ちではあるが歩み續けて、その間にはよき友の多くに惠まれ、多くの人にも敎へられまして來ました。勿論私はすべて光任せであります故、ほめて下さるのはそのまゝ光の前に供へさせてもらうし、まだ足らぬ勝ちでまづい點は私の至らぬこと故重ねてあやまらせて貰ひます。

それから一燈園生活の清規とでも云ふやうなものを述べさせて貰うなら、先づ第一に自分が惡いと思ふことである。その内の一つは自分のすべての罪や缺點やを自分がみとめてそう思ふことです。次は他のすべての人の罪や、なやみは皆我が罪であると感ずることですが、この後の方は非常に大事な

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

ことであるがなか〳〵實感としては湧いて來にくい。

ある女學生が「天香さん、私達のことがめい〳〵自分は悪いといふことはすぐにわかりますが、他人のことまで自分のわるいことだとおつしやるのはどういふわけですか。」といはれた。それに對して私は例の鑄掛松の話をしました。両國橋の上から遊女等に戯れてへゞれけになつてゐる何處かの若旦那の豪奢ぶりを眺めて、手より口への乏しすぎる自分の生活を考へ、その場で鑄掛屋の道具を水中にほうり込みその夜から強盗になつたといふ話しをしました。我々は常に何氣なく色々なことをして暮してゐるが——そして其人になつて見ればそれ〴〵無理のない事かもしれぬが——その內にどこでどんな場合かにどんなつまづきを他人に與へてゐるかわからぬ。まして自分が常に足らぬ勝ちな者等は尚更である。これが他に對しても私がわるいといはねばならぬ所以だと申したことがあります。又一燈園へ來てゐたある青年のまじめな告白にも、「私はこゝへ來て一番最初驚いたことは、天香さんが私に自分達がわるかつたのだからといはれたことでした。平生私は家に居ますと、やれ穀つぶしの寢坊助の何のと、年端もゆかぬ妹や傭人等にまで變な目つきをされるので、つい何糞と思つては不貞くされて金を持ち出してある內は歸らなかつたりしまして、いろ〳〵と罪を作りましたが、その間も一度だつて私は心から面白かつたとはなかつた、しかしこゝへ來て始めからあなたまで自分がわるいといはれるだけで私には何ともいつてくれぬ、私もこゝへ來るのは實は何鹿ケ谷等へ行つたつてどうするものか、親父達のびつくりする程のことをやつてやれと心の內で反抵して大不平で來ましたが、何時の間にかきれいに忘れてしまつた。そして誰も何とも私を責めるものはない。皆よい氣持で樂しげに働いてゐるので私もつい一寸仲間に入れてもらへば、それはよろこんでさせてくれる。しまひに町一托鉢に出かけると、ある家では、うちの若い者が近頃道樂で困るから、少し一燈園の方の眞似でもするやうに、よく話してやつてくれ等とたのまれることになると、自分で自分がわからなくなりました。』と語られたことがありました。この模樣を實家へ行つて喜んで話せば親御さん達は、「何あれがそんなになるものですか、きつとうまく天香さんをだまして狸をつかつてゐるに違ひないとてんでとりあげぬが、私はよし狸にしても一年も二年もかぶりつゞけられたらたくさんだといつて笑ひました。まだ面白い例があります。ある勤め人の夫婦でしたが、何か意見の衝突があつたとかでどうでもお互ひに我慢がしきれぬで十三年でも連れそつた仲なのにいよ〳〵わかれやうといふことになつて、もとの仲人の某工學博士の處に行かれたのですが、博士夫妻が私の知合ひでしたので、私にどうしたものかとの相談がありました。私も考へたが、夫婦間の出來事はデリケイトなものだし長年つれそつた人達であれば、今迄も隨分いろ〳〵なことがあつて過ぎて來たことであらうから、そううまくはゆかぬ、

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

で仕方がないからその嫁さんを博士の所によんで貰つて會ひました「一體貴女はお別れになる氣でせうが、思ひ殘りなしに別れられますか。」ときいて見た。すると「さういはれるといくら何でも長年つれそつた中ですからそう痛快には別れられませんが、何分こういふ仕末で……」といふわけ、そこで「ではかうなさい。どうせ別れるなら後でくよ／＼と未練が殘らぬやう一つ痛快にお別れなさい。その方がどうせ別れるお互ひの爲でせうから……。」と申したら「そんな方法がありますかときかれますので「それはまあ別れるといふからにはどちらにもいろ／＼とあつたことでせうから、一から十まで夫が惡くて貴女がよいともいへますまい」よく考へれば、あなたにもよくないところがあつたのでせうから、そんなことを別れる時きれいにあやまつてしまひなさい。すれば別れても心殘りはないかと思ひます。」とまづ逆手を使つたわけです。そこで奥さんもではそうしませう。日は何日といふことにきめて歸られた。いよ／＼其日は私も立會つて仲人の博士夫妻が口をきくわけ。始めの時とちがつて別れ話には流石の博士夫妻もつらいだらうが、こつちにも寸法があるので、嫁を別室において、旦那に向つて、「どうも今日は困つたことになりました。しかし今更私からどうかこうと申しても仕方もないと思ひますが、實はさつき奥さまからたのまれて、別れる前にお願ひがある。それは今迄にいろ／＼と我儘等をしてすまないことが多いからどうかそれをきれいに許すと一言仰つて下さいといふことでしたから、」と申すと、旦那の顔が急に變つて、「え、え、本當に彼女がそんなことを申しましたか、」といふ。博士こゝだと許りに「いゝえ、もう本當なのです。今あちらでそのことで泣いてゐらつしやる位ですから、決してうそではございません。」「さうですか、さういはれると何です、實は私にも長い間にはいろ／＼無理をいつたりして泣かしたりしたことも度々あつたんですからそれでは私の方の惡かつたこともどうかよくあやまつて下さい。」といふわけ。で博士夫人も、いそ／＼と次の間にいつてその話を取り次ぐと奥様は「やどにさう云はれると私は穴へでも入りたい位です。實は私も少しヒステリーの氣味で、自分でも常には惡いと思つてゐましたが、會社の用でおそくなるとは知りつゝもずい分我儘なまねをしてそれは／＼恥かしいことだらけですからどうぞそういはずと私を許すと言つてくれるやうお願ひして下さい。」と本當に泣いていふわけでした。そこで博士夫人は又向ふへ行つてそのことを旦那に傳へますと「いや、本當にそんなことを彼女がいつてくれましたか、そんなにわかつてくれゝばこんなに人の世話にならぬのですが、そう云はれゝば、私だつてなに早く歸れば歸れるものを、又いやなことをいはれるかと想ふとつい長話にくらしたり、遊びにいつたりして、そりや一人で家にゐる者の身になれば待ち遠しい思ひでゐることを知りつゝ遲く歸つたこともあれば、ずい分亂暴なこともしましたので、どうか私の方も惡いのだから……」

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

と言ふものですから、博士は無言で、その手をとつて「君しつかりしてくれ給へ」といつてゐられる所へ奥さんがたまりなくなつて次の間からかけこんで來て旦那の前に泣き伏してあやまる始末、そこで博士夫妻は二人に向つて、「もういろ〳〵なこともとけあつたやうですから、どうぞその氣で心を入れかへて今一度新しくいつしよになつて下さい」といはれたので、二人も心から本當の所に氣がついて、さすがはもと〳〵わけの分る人達なのですから、其場は目出度くきれいにをさまりました。今思ふと芝居のやうでしたが、私は始終合掌して拜んでゐました。その人達は今はもう生れ變つたやうに仲がよくなつてしまつて、私もよくよせてもらひますがそれは大事にされます。

以上は私が惡いといふ立場でありますが、こゝで今一つ私は先帝明治天皇をお偉いと思つて拜んでゐる貴い話があります。例の大逆事件で幸德以下二十幾名の者の罪が決定していよ〳〵犯罪となつた時、時の桂首相が、その案を携へて闕下に伏奏して御裁下を願ふとになつて、陛下のお前に出て事の由を申し上げてどうぞ御裁下をと申しあげると陛下には何とも仰せがなく、桂公も重大事件ですから重ねてどうぞ御裁下をと願つた時、陛下はたゞ一言『朕が惡い』と仰つしやられたきりださうです。其時、桂公は腦天をうちくたかれたやうになつて平伏したと申します。

罪あらば我を咎めよ天つ神
民は我が身の生みし兒なれば

これがその時の御製であつたと承つてゐます。かゝる大慈悲の天皇を上に戴いてこそ日本は安泰であつたのです。

モ一つの淸規は下坐を行ずるといふことである。人の上にならいで下にゐること、仕事でも下の仕事をさせてもらうことである。とかく人は上を望んで下をいやしめる故、その下のことを喜んでやらしてもらう。これも生存競爭とは反對の行き方故安心である。私達はよく便所掃除をさせていたゞくのも、世の中の人がそれを下の仕事としてゐるからで、一燈園の生活は何も便所掃除にのみ限られてゐない。許されゝばどんな上の仕事でもしますが、しかし此所から出發するとあぶなくないのです。根本を下坐に据ゑる時、どんなに高いことをあづけられてもゆるがぬのはたしかです。これも明治天皇の御生活ですが、平常御質素であられたことはよく承はりますがこれもたしかな筋から聞かして貰つたのですが、日露戰爭當時のこと、陛下の國務をみそなはせられる御室の敷物はずい分古くて所々すり切れてゐたさうですが、時々侍臣が御修繕の事を申し上げても、これでよいといはれてお許しがなかつたと申します。これもありがたい御聖德で、九五の位にまし〳〵て下坐を行じていらつしやられたのである。

次は無所有といふことである。これは御承知の釋迦もキリストもずい分ハツキリした行じ方をなされてゐると思ひますが、こゝまでこなければ經濟方面の點に徹底的解決は出來ま

せん。そして經濟生活が基調となつて組み立つてゐる政治や國家や國際の關係等も又さうであります。

然しこゝに問題がのこる。それは成る程、無所有はわかつた。それはずい分ハツキリした貴い道であるが、あまり出家的ではないか。もし財物があつたらそれをどうするか。又それをあつからねばならぬ者もきつと出來るだらう。その時どうするのか？ これです、これが今迄の先覺開山達もさうハツキリは自身と範を垂れられた方がなかつたことでして、それに現代のやうに經濟問題のやかましい時代には、この道による財物の扱ひ方が可なり重要な事柄だと思はれます。そこでこれは一燈園では取扱へぬ。一燈園はどこまでも無所有、無くてよい生活である。しかしもし財物があつたらそれをどう取扱ふか。そこの整理や扱ひ方は別に宣光社といふ名目の組織でやつてゐます。こゝが私共の特色と云へば特色でもありますが、又いろ〳〵と誤解されたり、つまづきを與へたり可なりやゝこしいのです。何故なら世間は二重の人格をみとめてはくれぬ。一燈園としては無所有、宣光社としては假所有として立つとしてもなか〳〵あぶながつて信用してくれぬ人もある。が、假所有の宣光社もすてたくない。で、これは目下いろ〳〵な人によつて研究中でもあり、自分も近來其方面の爲めに奔走してゐる日が多いやうですから近く何とかハツキリした具體化した形式で發表が出來ると思ひますが、現にいくらかあちこちで實地に試驗されてゐます。この近所では栃木の松下さんのカイロ灰會社等はその一つですが、松下さんが社長で職工さんの日給より低い報酬をうけられて社長自ら勞働服で事務其他に働かれる。小使の仕事も、車を引く事も手傳つてゐられる。しかし宣光社の問題は複雜ですから、資本家との交涉、勞働者の問題、其他の商取引關係と隨分やゝこしいことが續々と持ち擧がつて來ませうが、さうした複雜の中に入り込むところに、ホントの修養がなされるといふものでせう。

以上甚だ急がしくしかも雜然と取りちらした申し上げようをいたしましたが、一燈園生活の大體の輪廓は御了解願はれたことゝ存じます。が、省みて甚だ淺薄であつたと思ひます前いふ通りどの位な程度で申してよいかわからぬので、ある人々はもつとハツキリしたことをいはぬかといはれるかも知れませんがもし本當の問題でもつと眞劍に私を叩いて下さるならば又申上げようもあるかと思ひます。とにかく今日はこれで許してもらひます。

（大正十年十月廿三日　足利市尋常小學東校に於ける講演）

（栃木一燈園　富田清兒筆錄）

性慾のなやみ

松下吉衛

I。初めまして。私わIと申します者で。

K。あゝそうですか。電報でしたのでお待ちして居ました。私がKです。

I。實わ思案に餘る事が生じたものですから、御相談にあがつたのです。

K。よくおいでゞした。私達で間に合いますなら何なりとお使い下さい。

I。そうおつしやられると恐縮ですが、私わ〇〇村の農家の者で、家でわ〇〇を兼業として居るのです。〇〇の方わ主として私が當つて居るのですが、召使つて居る女とツイ關係が出來て了つて、處置に困つて居るのです。女の言うのにモウ四ケ月になつてるというのです。

K。で、ご相談の要點というのわ？

I。私にわ今どうしてよいか皆目わからないのです。こういう場合、私わ女に對してどこまでも責任を持つべきでしょうか？一所になつた方がいゝでしょうかどうでしょう？

K。責任わあくまでも負わねばならぬ筈でしょう。しかし一所になつてよいかどうかわ、具體的に貴兄や女の方のハタの事情をよくうかゞわんと判斷に苦しみます。無躾けですが差支はない限り、お話し下さい。——女というのわどういう方なのですか？

I。それが隨分復雜した事情の下にあるのです。村の大工の所え來た後添の連子なのですが、生活の都合から更にある農家の養女に貰はれて、日々賃取に出て居るものなのです。私の所えわ去年から來て居るのです。今から考えると、夢のような氣がするのですが、ツイ關係が出來て了つたのです。

K。一生涯つれ添う氣だつたのですが？

I。はづかしい話ですが、全く無分別だつたのです。一生つれそう値打ある女とわ思つてないのです。ほんとうに責任のないことをしてしまいました。

K。ご兩親わあなたがその方と一所になることを喜ばれないのですか。

I。えゝ。喜ばないでしょう。四五年前——たしか私が二十

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

三の時かと記憶して居ります。—— 兩親わ私に親戚の娘を嫁に貰えというのでしたが、私わ何となく氣が進みませんでしたので、兩親に逆らつてトウ〳〵斷つて了つたことがあるのです。—— 親わ私のことを餘程堅氣者と思つて居るでしように、こんな不始末をでかして何とおわびしてよいやら困つて了いました。

K。イヤ。性慾そのものにわ善惡はない筈です。惡いのわお互皆(みんな)です。貴兄ばかりが取分け罪人(つみびと)というワケでもありますまい。淫(みだら)な點でわ私など自分であきれてる位です。世間の人だつて大抵わそうでしよう。たゞ環境と機會との相違で、外部に表われる表われないがきめられるだけのもののように思われます。貴兄と同じような境遇に立たせれば、私も貴兄と同じようなことをしでかしていましよう。しくぢりをしでかした後の貴兄を取分けて罪人扱ひしたくないのわ、こんな氣持からですが、そうかと言うて、しでかさない前の貴兄を清淨無垢であつたとも私わ信じません。色々むづかしい哲學上神學上の議論もありましようが、事實として人間には原罪があるとしか思えません。そうでしよう。何處に全き人がありましよう?お互を省みればわかる通り、實に人間わ醜く穢ないではありませんか?一日として一刻として「罪のない生活」を私等わ送り得ましようか?みんな罪人です。だから他の惡わ裁けません。許し合わなくちやならんのです。

I。…………………

K。若し貴兄がこんな度の事を機會に、こうした罪惡感を痛感されて、他を責めない心、許し合う生活に新らしく眼を開かれるなら、禍轉じて福となると信じます。

I。でわ、私わどうすればよいのでしよう?

K。此際貴兄の態度如何によつてわ、たとえ名もない匹婦とわいえ一つの魂を葬ることになることを考えなければならないでしよう。

I。それはそうです。

K。女の方は貴兄と一所になることわ望んでいないのですか?

I。望んでわいるのです。しかし身分が違うからといつてあきらめてくれるようでもありますが、その話しになると泣いて了います。

K。貴兄わ長男さん?

I。そうです。弟妹が四人あります。

K。ご兩親わ貴兄方の結ばれることをどうしてもお許しにならないでしよう?

I。許すまいと思います。平素そういうことにわ非常にやかましうございますから。

K。お近くに御相談なさる方がおありでしように遠々(はるばる)わざ〳〵こゝまでいらつしやるからにわ、何か本物でこの問題を整理したいお考なのでしよう。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

I。そうなんです。

K。でわ申します。先づ詫びねばなりません。貴兄の御両親又女の方の責任者の前にありのまゝを告白して懺悔の態度を行ひにあらわすのです。

I。女とわどういう關係になりましよう。

K。許されるなら――他をそこなわないなら、結ばることが自然だし又道だと思います。

I。親達がきかなかつたら、どうしましよう？私わ家に居られない氣がします。

K。我まゝ故ならテンから問題をなしません。貴兄が徹底して一生を懺悔の奉仕と御覺悟なら、微力ですが、共々に歩ませて頂きます。餓えるなら一所に餓えましよう。

I。女わどうしてくれます？

K。イヤ。私にわどうするこうするといふ力わ全然ありません。たゞ誰かとて懺悔の生活に立たれるなら（光わよいようにお導き下さることゝ自分共の體驗から信じているまでです。貴兄と同じような氣持でいらつしやるなら何日でも歡んでお迎えいたします。

I。ありがとうございます。前途が明るくなつたような氣がしてきました。

K。どうぞ輕はづみわなさらんように。

I。今わ農繁で家も取込んでいますから、その方が一片ついてから、お教え下すつたように親達に詫びるつもりです。

K。そうして下さるとありがたい。

I。何か急な御相談ごとでも生じましたなら、私が上がれなければ弟を遣わしますから、どうぞ宜しくお願い申します。

K。どういう性格の方か知りませんが、女わとかくこういふ事にわ無分別になり勝ちの者ですからよく御氣をつけなさるがよいでしよう。

I。初めてうかゞいまして、どうも色々ありがとうございました。でわ、御免蒙ります。

K。どうぞおだい事に。そこまでお送りいたしましよう。

――一九二二・一・七――

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

牛島の漁村から

—松下兄へ—

藤井悌

霧のやうな雨が降ります、
きのふもけふも。
牛島のさびれはてた漁村に
ひとり病ある身を寄せて、
霧雨の下に靜まりかへる海を眺めながら
しよんぼりとわたしは座つてゐます、
きのふもけふも。

村の人だちは乏しい生活を
しんみりと送つてゐます。
お互の小さな手助けや、
素朴な、ぶつきらぼうな
しかし包まれぬ優しさのある
さゝやかな言葉を
途中の行き逢ひにも投げかはして、

しみじみとその日その日を暮らしてゐます。
遠くの町にトロール船の會社ができて
こゝの海のさかなをも
根こそぎ攫つて行つてしまふので
村では漁がすつかり寂れました、
みんなが乏しさのどん底に落ちて
爭ふべき物も羨むべき人もなく
お互の優しさのほかには
活きる賴りがなくなつたのです。

村には大きな地主も金持もありません。
僅かの黑い米と、砂地にみのる落花生と、
瘦せた筋ばつた野菜と、
稀にとれる鮫や章魚などの
不作法な[illegible]の魚どもが

村びとの必死の努力の獲物です。
停車場へ一里、砂山こえて
しつとりと霧雨を含んだ砂を踏んで、
松原の間にちらほら見える
別荘の形のいゝ屋根を眺めて、
たまに漁のあつた朝など
村の女だちはいそ〳〵と
取れただけのものをすつかり運びます。
不思議なことには、村で取つたものを
たま〳〵村で喰べようとすれば
相場は却つて町よりは高いのです、
そして村の人だちは
默つてそれを諦らめてゐます。

•

ある日この靜かな村に
珍しい活氣がたちました、
久しぶりで大漁船が着いたのです。
鷗のむれは西日に白い翼をひらめかして
海づらを低くみだれて飛び
村の人だちは昂奮しきつて
渚邊を右往左往してゐます。
砂の上に引きあげられた船からは
かず知れぬ海の怪物が――

それは奇怪な不氣味な形をした、
このあたりの海に好んで棲むらしい
いけすかない魚類ばかりでした――
村びとの歡呼につれて
躍りながら砂の上に落ちて來ました。
あた白い胸に不氣味な一文字の口をあけた鮫、
尻尾に毒ある針を蠢めかしてゐる赤鱏、
ぬら〳〵と隣りのものに抱きかゝる章魚、
それらの獲物を圍んで、勢よく、
村びとは久しぶりで『取引』を始めました。

取引はだん〳〵緊張して來ます。
眼の前の利得の豫想は
たちまち村びとを熱せしめました。
値を糴る聲の高くなるにつれて
見る〳〵人相が變つて來ます。
敵對と狡智と、
得意、落膽、虛勢、不安、――
この素朴な村びとの顏にも
もろ〳〵の入り組んだ表情が浮びます。
手柄話で地酒に醉うた人もありませう、
女房の手前をも兼ねた人もありませう、

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

とにかく勝負は終りました。
そしてまた漁がとだえれば
村の平和はまもなく取返されませう。
また霧のやうな雨が降ります。
しつとりとした砂地を嚙む波は
愼ましやかな音を送つて、
諦めきつた村びとには
靜かな柔かな日がつゞきます。
そしてわたしは獨りしよんぼりと
海を眺めて座つてゐます。

（十、十二、三十）

梟の聲

不相子

私は昨夜獨り寺の墓場の傍で茫然と立つて居ました。遠くの森で梟がボツボーと鳴いて居ます。この兩三日何かしら、沈んで暗い感じがしてゐましたが、その聲で何か光がチラと射したやうに覺えました。「あの聲だ、あの聲を出したいのだ」「あの聲の出るまで口を開いてはいけない」それからよい氣持が續きました。

今朝、寺の客殿の廣い廊下を掃いて居ました。何處から來たのか挽茶のやうな綠の松の花粉が、鏡のやうな板の上一面に吹き込まれてゐたのです。「何といふ美しい！」私は箒を動かす事が出來ませんでした。「松の粉が入つて汚くて仕方がない、佛壇も何も……」と、昨日此處の人かゞ云つてゐたことを思つて、又掃き出しました。私は妥協したくない、光の射すまでは斷じて動きたくない――かういふ心持が頻りに致しました。

「早く何かさせて下さい」と迫つた時、先生が靜かに「どういふ事になりゆくやら――小刀細工はしたうないし……」と云はれた時、私はハツとしました。恥かしい、と同時に力强い嬉しい感じがしました。

とうに瞬時も待つて居られないといふ氣分に幾十度なるかしれない）、徒らに妄動して神の先廻りをする事を辱ぢたのでした。それからあの夕方、畏ろしい沈默の中に不思議な力を私の上に與へられた一椀の茶と丼、あれは終生忘れ得ぬ經驗の一つでした。八年以前初めてお光を拜んだ以來幾度も私を裸に引剝いた不可思議な訪つれ、（先生が易々と用ゐられた「いい氣持」といふ言葉は何といふ表現であらう）、その時には爲すべき事と爲すべからざる事とが此上ともない判然した意識となつて命令的に表れる、大盤石のやうに動かぬものが腹の中に來てゐた。先生に對する尊敬或は禮儀といふやうなものも全く忘失せしめやうとする。自他の區別があつてないやうになる、潑剌たる勇氣が溢れ出ました。（然も尚折々チラ〳〵と區別や思慮が影を落してはゐました）。

あの時は判然爲べき仕事が示されてあつた。然し東京を出た時に「第一に己れを虛しうすること、我を出さない事と」の必要を感じ、それには、絕對に「師の命令を聽くこと」を誓ひましたので、自分の內に無上の命令と思はれるやうな聲のする內にも先生のお言葉をそれ以上に置く事を忘れませんでした、（この前提も打碎くべきであつたのが）。然しあの晩兄の訪れたことは何の意であつたのかしら。我は分別、理智といふ私の一番現在厭うてゐるものを何故か暗にそゝり立てるやうな人、それで成る可く避けたいと思つてゐた人の處へ行けと言はれた先生の意は何處に在つたのであらうか。私があの時「少し強過ぎます」と反駁したのは、何も仕事や何かの困難ではなかつた。まだ來た許りの、チラとお光を見た許りの、弱い魂を直ぐに一番の敵地へ向けられる事を思つたからであつたらしいのです。（少し言方が大げさのやうに感じますが……。）先生が舊い生涯の形身たる洋服を着て會社を訪れる事に行詰まられた時のやうに、新生涯に入らんとするものに一番怖いのは親身の人に會ふ事、（それは舊の生活に引張り込まう〳〵とする強い力である）ではありませぬか。

然しそれでも私は運命卽ち神の意ならばどんなものも避けなく、虎穴に入るも安心だといふ心はいつもありましたから參りました。唯あの時確が先生の御命令に何か曖昧なものがあつたやうに感じたのでした、それで「確かですか」などゝ繰返して訊うたあの言葉の中には悲痛な響がありました。來客があつて遠慮があつたのでなかつたら、あの時私はどんな振舞をしたかしれません。それ程妙な力が身の內に渦卷いてるのを感じました。小刀細工ではなかつたのか——今でも不審です。あの晩、明かに我內のあるものが先生に反抗した。唯分別があつてそれを壓へてゐました。茲で私は「虛しうすべき己れ」なるものゝ性質に疑が起りかけました、絕待の服從は人間としての先生にではなくて先生の內なる光にだと思ひました。此間の筆記の中にも先生が「小刀細工を免れないので私も困つてゐるのだ」とありましたし、矢張り人間は人間程度の問題丈けだと感じました。何故、いゝ氣持になるまで

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

如何なる用事がぶら下つて來てもじつとして動かないでゐられぬのか。何故神の現前を斷じて待たうとしないのであらう――私は先生に對してさへ一種の焦痒さ、憤りに似た感じを起しました。あれから二三度向ひましたのも皆そんな感じに馳られて、先生にその疑問を解かして貰ひに行つたのでした。道の爲めであつても憤りは鎭めねばならぬとは思ひましたが、その時は仕様がありませんでした。然し來る度に先生の温顏に接すると我慢の角は折れて、默つて歸りました。唯一つ先生が始終忙しさうにしてゐられるのを見て、何か侘しく厭な感じになりました。忙がしさうで、そのくせ隨分呑氣だなあと思ひました。何故なら、眼前に惱んだゐる小さな一個の魂をそつちのけにして置いて、接持やらノートやらに汲々として居られる、勿論それによつて一人位じやなしに幾百萬の人が救はれるかもしれぬが、遠きより近き、手中の小鳥一匹の命も亦急ではあるまいかと思つたらしいのです。(中桐先生もこんな批評眼を出すかと心配せられたのでした、然しこれは批評と申すより魂の叫びです、止み難い要求をした。それをありのまゝ書いて見ただけですからそのお積りでお許し下さい)。然しこんな妄念は今の所一切消えて居ります。今朝の氣持では、只管に唯大眞佛の聲(蛙の唄もあり、梟、松風、等の囁き、子供の喚き聲もそれの中)を歡聽する許り。新綠の中で早やミン〳〵蟬が鳴いて居ます、「四時行はれ百物生ず」の先生の御言葉を憶出します。それにつけても、我內なる「四時」はとかく折々澁滯し勝ちで寂しいです。

自分をよく思はれ度いの、自分が可愛いのといふ爲からではなくとも、私の性のまゝを働かす時に餘りに唐突になり勝の爲めに、餘程寛仁な人をも怪しませるやうになる、それでは奇を衒ふやうに見えてどうかと思ふ、そんな所から慮りが出てこれが私の妥協となります。佛が出るか魔が出るか分らぬが、自性のまゝを成る可く長い間、毫末の制肘も加へずに働かして見たい、徹底的にどん底まで、やつて見たい希ひが切りにあります。さうする時初めは屹度突飛になつたり、狂氣じみて、變てこな振舞などもあるでせう。然しそれは長い間の習慣で積みためた。幾重もの皮を有つてゐる者の、徹底的解脱に到るまでの止むを得ざる過程と思ひます。暫らく變でも辛抱して行つたら或は本來のものが出るであらうと思ふのです。それで今暫くの間の凡ゆる狂異も何も皆寛大に認容して呉れる境なり人なりを欲します。先生を賴つて來たのも玆に根があつたのでせうが、それでも矢張り此方から遠慮の氣味が幾分あるかしらん、徹底しないし純一の氣分になれぬ(尤も先生の處へ來たといふ名許りで直ぐ逐ひやられたからでせうが)ので、これぢや家にゐたのと大して違はぬとへひました。然し先生ならこんな心持を一番よく了解して下さる事と信じてゐます、唯御多忙の故に話す機會もないからでせう。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

斷すると直き消えうせて了ふやうな果敢いものですから、極く〳〵微弱なものと思はれます。それ程私の上に溜つた塵は深いと見えます。その代りこの氣持になる時は「微温的」といふやうな事がなく、毫末の妥協も忌む程強いものゝやうです。先生の云はれた「ジミ〳〵と滲み出る」的なものではなく、到來は遲い代りに勢が烈しいやうです。これの無い間々の慘めさは之に應じてひどく、死んでるやうに意氣がありません。かういふわけですから、もし先生の御心にかなはゞ何かと御導き下さるやうお賴み申ます（かつても神經衰弱のやうになつたのを心配してゐるのです）。

母や兄は身體の衰弱を一番案じてゐるやうですが、私はよい心持でさへあればすべてを忘却し盡してゐます、すべてに代へてそれを望むのですから。何か、わざから——例へば謡曲とか書道とか劍道とか（それはいつか究めて見たいと思ひます）入つて、落着いてこの氣を養成しようかと思つた事もあります、「忘筌」、あそこまでやれば何だつて一つですから。草取でも洗濯でも裁縫でも皆行けますが——玆で私は一寸妙に感じました、私は一燈園に來て、園の精神といふ懺悔奉仕の心持を有つてゐるかどうかと。もし前のやうな氣で仕事をさせて貰つてゐるとしたら、何の奉仕になるだらうと。自分を救ふ爲ではないか、勿論その自分になれたら自他もないけれど、修道の間はやはり他の爲めといふより先に身の爲めになつてゐる、こゝはどういふ事になるのか先生にいつかお尋ねしたいと思ひます。

先生は托鉢は菩提心〃貰ふのだと言はれたが、菩提心の中には上求菩提下化衆生とあるさうですが、私には上求菩提の方が重いやうです、今の所は、先生のおつしやる事はよく分ります、言葉以外の意味も分るやうです、唯自分に純一な托鉢の心が生じないのかと思ひます。いろ〳〵無駄口を叩きましたが、これ丈け先生に會つて話さうとすると大變に先生の貴重な時間を奪ふ事になりませうから手紙で書いて見ました。どうも手紙は不自由ですが、唯言ふ心は一言で盡きる事です、それが幾分暗示できたら結構です。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

導かる者の心

池田龍一

庭草をぬきつつ居ればかすかなる夕風わたる松風の音

ゆふざれば物音のなき吾が庭や吾を呼ぶ吾子の聲の寂しき

ゆふべ風かすかにわたる松が根に吾れと吾が子と草をぬき居り

みちのくに遠く來たりて眺め居る今宵の月のさやかなるかも

つきよみの光さやかに照る山の連りみつつだだに時過ぐ

久方の月夜をみれば川の上にさ霧たちつつふけにけるかも

小夜ふけと夜はふけたれど虫の聲あまたは啼かず秋も深めり

汚れたる手を洗ひつつみる窓の外の面の樹樹は色づきにけり（診察室より）

疲れ來てみる窓の外の樹樹の葉に澄み透りつつ秋の日てれり

澄みとほる光寂しき秋の野のゆふべを近み蜻蛉とび行く

眞の光

成蹊學園　中村春二

青木さんの「南部托鉢」をよんで感じたことがあります。

青木さんには、私はまだ御目にかゝつたことはありませんが

一燈園の事實に就てはかねがね御同情して居ます故、何か御役に立てばと申上げることとしました。

青木さんの見られた光。その光を青木さんはあざやかな光と認められましたが、私はさう思ひません。殊に女學校の教育に永年從事して居る私は、青木さんはまだ永らく女學校の教鞭を取つたことが無いのか、若し永年取つて居られたなら徹底的に突込んだ教育をしたことがないのではないかしらと思ひました。若し後者でしたら、青木さんは二途かけずに女學校の教育か、一燈園かどちらか一方に進まるべきものと思ひました。ほのかに人傳に承れば、青木さんは御一家の事情で一燈園に全然身を委ねることが出來ないとの御話、さすれば時々京都まで行く様なことは止めて、寧ろ女學校の教育に一身をかけ、土曜日曜の休暇を受持の女生徒の爲めに專念に盡くしていたゞきたいと思ひます。青木さんはあざやかな光と述べられて居ます。然し私はさうは思ひません。マッチの火は電燈の輝く今日、誠に微々たるものです。然しながら電燈の消えた停電の場合はあざやかなものです。

今日のやうな人心のすさんだ時代は電燈の消えた時のやうなものですから、マッチの火もあざやかに認められませう。然し乍らそれは眞の光のあざやかさではありません。天香師の常々說かるる光は青木さんの認められる光のやうなマッチの光ではありません。電燈よりも更に強烈な萬物を育成する日の光と私は獨りで考へて居ります。

私はマッチの光と譬へましたが、青木さんの認められたのはほんとにマッチで直に消えるものです。女學生は兎角感激し易いものです。然し乍ら永續性に缺けて居ります。一燈園の人々が勞働をしたことに就て「勿體ない」と感激しても、それは一時的のものです。だまかされてはいけません。女生徒がへんな風態をして居る一燈園の人々と打連れ奈良京都又は東京の町々を歩いて人々が目をそばだてても何とも思はず、更に毎日いやしい勞働者の仕事をする一燈園同人に喜んで嫁し一生を委ねる意氣込が心に芽ざす時に於て始めて光のあざやかさが認められます時と御考へなさいまし。

宗教心の起ると云ふことは一席の講話では得られません。非常な大事變が、度々の大煩悶に依つて漸次固められるもので、若し一寸した事柄で宗教心が起るとしたら、基督教の大擧傳道で何千人を得た信者が、一ケ月後大部分不信者となるやう一時的に熱するもの直に醒めるものです。

一燈園の將來は中々有望であります。と同時に容易ならぬ困難があります。私は一燈園は今日の社會を救ふべき使命を有して居る新しき宗教と信じて居ります故、一燈園の人々が將來の苦鬪に堪へ得る樣に今から力強い確かな足ぶみで進んで行かれたいことを衷心から願つて居ります。

マッチの光をあざやかな光と認められることは不幸のやうでもあり、又幸のことです。そこに喜悅もあり、そこに又苦惱も潜んで居ります。私は一燈園の人々がその邊の消息をよ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

く理解し悦ぶと同時に互に恐れて眞の光の道へと突進んで行かれんことを祈つて居ります。遠慮なく申上げることが、私の癖でもあり、一燈園の同人の方々はこれを容れらるる雅量があると信じまして、述べさせていたゞきました。失禮の段はどうぞおゆるし下さいまし。合掌。

朝の鳥

田の澤道場、曙一燈園にて

三石勝五郎

建物と米と
經驗とに信頼す
山深く雪ふりて
樹々に色もなし
雪かいて庭に立てば
谷川の音のみさゝやかにきかる
靜寂を破るは朝の鳥の聲か
やがて鳥の聲も絶えて
天地再び靜寂にかへれば
心の洞窟にこもりて
合掌——
たゞ經を讀めり

經をあげて

朝もなし
晝もなし……
夕べとなれば
火を灯し
經をあげて
今日の疲れを忘る、
取る食は醫藥にし
我が生命を自然にまかしてあれば
死も恐れじ
山に來て、雪深くこもりてあれば
我が心自ら慰まる
うれし、うれし、一身これ神佛の舍(やしろ)なり

こゝえる雲

切株は仰山にならびて
雪の谷は深し
爺が言ふに
十八年前に切つた道端のぶなの樹は

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

もう大部ひこばえを出して成長した
風に吹かれてゐる寄生木と
此の鑛山に生命をつなぐ人々……
一行は男も女もころび出た石ころのやうに
坂道にかゝりて米重く負ひ登る
峯近く這出る小屋から
そこにもけむり出て
師走の空にはこゞえる雲

鐵のくさび

雪ふかく
草鞋穿にて
木を割れり――
指先にしみつく
鐵のくさびを
空小屋から拾ひし寒むさ

吹雪の日

吹雪の日はかなし
私は留守して倉庫小屋にて
藁を打つ――
目にしみる
山の陽はあれど
吹き入る風の荒くして
我が手に切れる今日のひゞ

（大正十年十二月作）

或る旅人

吉田暎二

人

旅人
父
娘
その兄

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

所

不便な高原の一軒家

時

或る冬の日の夕方から翌朝まで（現代）

第一場

右の方によつて一間きりの貧しいすゝけた家がある。その一間の中央に圍爐があり。自在がかゝつてゐる。

左の方はずつと展けて廣茫とした野原が見え、その末の方になだらかに起伏する山脈が見える。家のすぐ傍に可なり大きな柿の木があつて、赤く熟した實が葉の大部分落ちた枝についてゐる。

その下で五十五六の老人が茫然と立つて居る。あたりは夕暮で淡暗く、何となく赤い光線が流れてゐる。殊に家の中は殆ど眞暗である。

（長い沈默）

（二十七八歳の旅人出る。）

旅人。一寸。失禮ですが、お願ひがあるのですが。

老人。（うろささうに）何です。

旅人。實は今晩一晩泊めていたゞきたいのですけれど、如何でせう。

老人。何處からいらつした。

旅人。Ａの方から参つたのです。

老人。Ｙ村の方に宿屋があつたでせう。

旅人。私は宿屋には泊れません。お錢がありませんから。

老人。何處へ行きなさる。

旅人。行先きは定まつてゐないのです。私は托鉢をして歩いてゐる者ですから。

老人。それではあなたは坊さんですか。あゝ緣喜が惡い。今の場合坊さんが來るなんて。

旅人。私は坊さんではありません。唯、この身を佛さまに捧げてゐると云ふ意味で、坊さんと似てゐる處もありますが

老人。もうよして下さい。佛さまや坊さんの話を聞くのも今はいやです。そんな不吉な事が云はれると。なんだか私に恐ろしい運命が近よつて來る樣に思はれます。私のもしかと思つてゐる不吉がやつて來る、前兆の樣な氣かしてなりません。もうよして下さい。そんな事を云ふのは。

旅人。佛さまや坊さんの話が不吉ですか。

老人。今の私には我慢出來ない。今私はその言葉から連想される事の起るのを恐れて居るのです。

旅人。それは何んです。

老人。「死」です。私の娘が今朝家出したきり歸つて來ないのです。伜が探しに出て行きましたけれど、まだもどつて來ません。もしかすると娘は死んだのかもしれないのです。それを考へるのは恐ろしい。何、大丈夫生きて歸つて來る

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

と私は努めて思はうとしても、それを裏切る心持ちは、はなれないのです。あなたがAの方から、いらつしやる時出會ひませんでしたか、色の白い丈の高い十八九の娘子と。

旅人。（考へて）若い女の方には一人も出會ひませんでした……然し御心配ですね。どうして、そんな事になつたのでせう。

老人。誰れがゞ悪い爲めにこんな事になつたのでせう。けれども私には誰れが悪いのかわからないのです。（泣く）

旅人。息子さんはどちらへ探しにお出かけになりました。

老人。Bの方へ歩いて行つたのを見たと云つた人がありましたからそつちへ見に行つたでせう。

旅人。息子さんお一人でしたか。

老人。近所もありませんからね。

旅人。それぢや、中々大變でせう。私がCの方へ探しに行つて來ませう。髮は何んなのに結つていました。

老人。ぐるぐる丸めて束ねてゐましたよ。

旅人。着物は。

老人。黒つぽい縞ので、友禪の前かけをしめて居ました。名はお絹つて云ふんです。

旅人。さうですか。大抵わかりませう。では一つ探して來ませう。（立かける）

老人。（見送つて居たが）まあ待つて下さい、行かないでもよござんすよ見ず知らずのあなたに、そんなにお世話になつちや――（無理に自分自身を慰める様にし）今に、きつと伜がつれて歸つて來るでせうよ。

旅人。でも、萬が一、Cの方に行つて居るのだといけませんから。

老人。私は一人で寂しいのです。どうか私と話してゐて下さい。私はもうこの一日中苦るしめるだけ苦しんでしまひました。悲しむだけ悲しんでしまひました。この街道を向ふから來る人を見ると、その度にそれが娘である事を祈りました。私の胸はときめきました。その人が近付いて來て、それが娘でないとわかると私はがつかりしてそのまゝこゝに倒れてしまはうかとも思はれました。それが何度だかしれませんでした。その度に私は泣きました。もう今は涙も乾からびて、一滴もありません。私は娘の事さへ、忘れてしまふ程に、ぼんやりしてしまつてゐます。而して、私の心は寂しさで一杯です。寂しさだけが、強く深く私に感せられてゐるのです。何にかあれば直ぐに寄りかゝりたい樣な心細さです。……何にもありませんが、是非今夜は泊つて行つて下さい。もう私は見ず知らずのあなたを疑ぐるだけの餘裕もありません。泊つて貰ふ事が一つの私の幸福である樣な氣がするのです。又私はあなたを疑つては悪い樣な氣さへします。

旅人。有難う御座います。それでは一晩泊めさせて頂きますどんな緣側の端でも結構ですから。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

老人。私は今朝からこの柿の木の下で立ちつゞけてゐたのです。晝飯も食べませんでした。私は家に入るのがいやでした。がらんとした、その家の中で苦しさと、悲しさと恐ろしい寂しさを見るよりも寒くつても、此處に居た方がいゝと思つてゐたのです。青いはてしない空も、打續いた枯野も、今は見るのも嘔(はき)さうになる位あき〳〵しました。私の足は腿の方までつめたくなつてゐます。それでも、私は家に入るのがいやでした。

旅人。では、私は薪を拾つて來ませう。而して圍爐に火をおこして、娘さんの歸るのをまちませう。

老人。(暗い顔になる) 娘は歸つて來るかどうかわかりません。歸つて來ない方が八分でせう。

旅人。そんな事はありますまい。私には、あなた初めまだお目にかゝりませんが、息子さんも、娘さんも、皆純ないゝ人の樣に思はれてならないのです。もし、此事の原因が、此三人の間にかもされたのなら、互に純な心である爲めにいゝ人達である爲めに、かへつて起つたのではないかとも思ひます。

老人。然し、いゝ人の間にかへつて爭なぞが起きませうか。

旅人。いゝ人は互の純悪の少しの點でも眼につきます。その爲めに他人をいれる事を中々しません。不正な人をきらひますから、その純な心が、或る醜い殼で被はれてゐる事があります。それはいゝ人なるが爲めに、被はれやすいのです。――然しそれはすぐにわかりますが――そんな事でいゝ人の間にはよく爭があるものです。いゝ人は佛樣がお救ひになり、お守りになるでせう。娘さんも必ずお歸りになりませう。

老人。そうだと有り難いのですが。(家の方に歩き乍ら)灯でもつけませう。それでは薪は裏にありますからもつて來て下さい。夕飯もたかなくてはならない。

旅人。泊めていたゞいたり種々御用をさせたりしてはすみません。私が薪を取つて來てから、しますから何うか。私にさせて下さい。

(家の裏に去る)

老人。(家の椽側に腰を下ろす。天を仰いで) どうぞ娘が歸つて參ります樣に。私は私の悪かつた事を知つて居ます。どうぞ娘、私を怨まないで呉れ。

漸次暗くなる。

第二場

第一場と同じ。夜。ランプが置かれ、圍爐に火が赤く燃えて居てそれを圍んで老人と旅人が對坐してゐる。外は暗い。

老人。娘が四つの時私の妻が死にました。私は可也娘を育てるのに苦勞しました。每日背中に背負つて、倅の手を引いて畠に行つたものです。私は子供を繼母に渡すのを不愍に

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

思ひましたから二度目の妻はもたなかつたのです。丁度今から二年前です。畠の地主が變つて、前のいゝ旦那とは違つて今の慾張りの地主になつたのです。その時分から私の體に病氣が出て來ました。始終腰が痛むのです。その爲めに段々働けなくなつてしまいました。倅もまだ二十ですから一人で暮しを立てゝ行けないのです。それに來年は徴兵です。大丈夫取られると思つて居ます。その時私達は何によつて生きて行けるでせう。私は始め國を呪つた位でした。然しそれも仕方がありません。それで私は娘に働らいてもらはうと思つたのでした。

（長い沈默。）

老人。もう寐たらいゝでせう。其處の蒲團に入つて。

旅人。あり難う御座います。けれども少しお話をさせて頂きませう。

老人。大部更けましたよ。

旅人。娘さんがもどつて來るまで待つてゐませう。

老人。いつの事かわかりませんよ。或は永久に歸つて來ないかもしれません。私にはどうもさう思はれてならないのです。

旅人。何に大丈夫です。今も云つた通り佛樣はお守り下さいませう。

老人。何う考へても私がわるいやうです。私があれに、工女になれなんて云はなければそれでよかつたのです。それも、あんなに無理に承知させ樣とさへしなかつたならよかつたのかもしれません。私は娘が工女になぞなるのはいやだと云ふ事もよく知つてゐます。又私も工女にさせる事はすみません。その生活に、多くの誘惑のある事も、不健康のある事も、あらゆる不安がある事も、あらゆる忍從と勞役がある事もよく知つてゐます。私は心で、自分の子を女郎にすると同じ位の苦しみを味ひました。或る時は、たとへこの上の貧乏になつても自分の娘を工女になぞ出すまいと思ひました。然し、皆が顏を見合せてゐる爲めに、三人とも水底に沈んではやりきれないと思ひました。つらい思ひをしても、娘に工女に出てもらへば、三人はまだ生きて行けると云ふ事を考へました。私は、自分を愛し、息子を愛し、而して、娘を愛する爲に娘に工女に出てもらひたかつたのでした。娘が工女になる爲めに一家三人に幸福が來ると思つてゐました。けれども、今考へると、それは僞りの心でした。私は娘や息子を愛すると云ひながらも、自分自身を一番愛して居たのです。自分一人の幸ひ許り願つてゐたのです。而してその爲めに娘を工女にしやうとしてゐたのです。利己の犧牲に娘をするつもりでゐたのです。私は今恥かしく思つて居ます。恐ろしく思つて居ます。

旅人。さう氣づかれた事は有り難い事です。世の中の爭ひや不幸や悲しみは大抵、あまりに自分を愛する爲めに起るものゝ樣に思はれます。私は、世の中の爭ひや不幸や悲しみ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

を、除きたいのが本願です。その爲めに何處と云ふ定めもなく諸所を流浪し、托鉢して、修行して居るのです。その修行はその自分を愛する心を取らうとする修行です。今の自分には、世の悩み、人の悩みを取除くと云ふよりも、自分を愛する心を以て他人を愛す事が出來る様になるのが第一の問題です。利己をすて、一切を佛にささけやうとしてゐるのです。私は、私が自己を捧げる事によつて、私の隣人も亦各自己を捧げて私と對するであらうと云ふ事を信じてゐます。願つてゐます。其處に、美しい人と人との觸れ合ひが醸されます。それが有り難い事だと思ひます。私はあらゆる處で、この利己の爭闘を目撃しました。あなたのお家もその一つでした。工女をきらう娘さんも、それを無理にさせ様とするあなたも、互に自分自身々のみ愛しすぎたのです。互に融け合はないからです。その結果は何れかゞ折れなくてはなりますまい。一つの流れに居て互に相容れない二つのものは共存は出來ません。今はあなたが折れたのです。あなたは利己にきづきました。然し娘さんは、自分を愛する事があなたより強かつたのです。それでまた娘さんは折れずにゐます。然しいつか娘さんは折れる時が來ます。一方が折れず一方が折れたゞけでは互に相容れ合つて暮す事は出來ません。互に折れ互に自己を擲つて、始めてほんとの生活が、人間らしい生活が出來るのです。いまに娘さんとあなたにも、その境涯が參りませう。而して、そこに隔てのないしんみりした生活が始められるでせう、私も、それを佛さまにお祈りします。

老人。(淋しさうに)よくわかります。なんだか、自分の醜くさに眼覺めた事が惠まれて居る様に思はれます。今の私の心持ちでゐたら、全く悩みのない生活が出來さうな氣がします。もう私は娘を工女なぞにはさせますまい。私は今いくら貧しくとも、例へ三人が餓死しても、朝夕親子三人顔を見合はせてゐる方が仕合せだと云ふ事に氣がつき出しました。

旅人。私は娘さんが工女になる事をお勸めもいたしませんし又それを非難も致しません。たつた一夜泊めていたゞいたゞけで、よくもお内の様子も知らないのに、なにかと責任のない事は申されませんから、それに一夜で、又去つて行く身ですから。唯私は、お内の人々が心よく暮して行ける事を祈つて居ます。人々の間に温い流れのない事は耐えられない事です。ことに、この様な邊鄙な處の家庭は、町の家よりもなほ強い愛の流れが必要の様に思ひます。私達は常に大自然と闘つて居ます。或人は人間は自然力に惠まれる事が多いと云ひますが、私はさう思はないのです。人はその貧弱な力で自然力との戰ひで勝ち得たゞけを收穫するのだと云ふが至當と思ひます。で、自然力は。やゝもすれば私達をその不滅な爭闘で押しつふさうとしてゐます。こんな廣野では尚さら自然の偉力はあなた一家に迫つて來ま

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

す。その時唯一の防禦力ともなるのはあなた方の愛によつて結びついてゐることでなくてはなりますまい。
老人。さうです。さうです。私達は又三人で野に出ませう。もう私も腰がいたいの、もう働けないのとはいひますまい。而して新らしい勇氣の中に大地を耕して行きませう。三ツの融け合つた力は、自然の偉力の前に屈する事はありますまい。而して。豐かな收穫の歡喜にひたりませう。（長い間）然し、娘はまだ歸らないのです。（暗い顏になる）或は死んだかもしれません。若し死んだら、私が殺したも同じ事た。あまりにあれの心を考へてやらなかつたのだ。
旅人。佛さまに、娘さんの事はお願ひしませう。私は佛さまの御加護と、娘さんの歸宅を確信してゐます。眼覺めた人自己を振り反つた人――その人になんで惡がもち來たされる事でせう？　この經文を讀んで靜かな心になりませう。而して、佛さまのお膝にすがりませう。私達の絕對の事は、祈るより外にありません。自己を投出し無我の境に入つた時の祈りこそほんとのもの〻樣に思はれます。
老人。では一緒にお經をよみませう。而してお祈り致しませう。然し私には無我の境と云ふことがわかりませんが。
旅人。私にも深くはわかりません。然し、この樣な托鉢の境涯に立たせて貰つて居ますと、體驗させられるやうに感じます。
（やがて二人端座して、經文をひらいて、合掌し讀誦し始める。）

佛遺敎經（成就出世大人功德分を讀んで行く。第五の不妄念功德のあたりに來ると、老人は漸次或る感激を催して來る。而して讀誦をやめて、旅人の讀經にうつとりと聞き入る。旅人の聲のみしつかにつゞく。）

漸次暗くなる。

第三場

第二場と同じ。朝、すが／＼しい光がみちてゐる。旅人家の外を掃除してゐる。老人家の中を掃除してゐる。
暫く後止めて旅人は上にあがる。

老人。有難う御座いました。
旅人。どういたしまして、昨晩はお蔭樣で安樂に眠むる事が出來ました。御恩は忘れません。
老人。どうしまして、いろ／＼心配をかけたりなどして……（暗い顏になる）だが娘はやつぱり歸つて來ませんね。私は昨夜一睡も出來なかつた爲に、頭がぼつとしてゐます。
旅人。まだわかりません、息子さんがもどつて來ませんから。
老人。まあ、それが今の私の唯一つの賴みの綱です。倅が何にも彼も解決する報知を持つて來ませう。早く歸つて來ればい〻。然し、もし不吉の報知がくることを思ふとまだ歸つて來ない方がい〻樣にも思ひます。……人間はもうきまつて居る事を、それを知らずに心配して居るのですね
旅人。ほんとです。人間のなさけなさ、いくじなさは其處に

もあります。而して、神や佛の偉大さがわかりますこの生きてゐると云ふ事も、既に運命づけられた軌道を歩んでゐるにすぎません。小さな私達です。何事も出來ない私達です。神や佛はこの定められた無聊な道に常になつかしいお光をお投げになり、私達をお導きになつて居ます。それを感じない呪はれた人は强ひて、その路から逃れやう、はづれやうとします。然し、それが私達人間の罪なのです。何もかも自分が第一番偉い、自分一人で何事でも出來ると思つてゐるのです。

老人。まつたくですね。

（長い沈默）

（娘とその兄がつれ立つて登場）

兄。お父さん。

老人、あつ。伜か、どゝゝどうしたお。

娘。お父さん。（駈け寄る）

老人。あゝ歸つて來た。歸つて來た。

（二人取すがつて相抱く）

（以下の言葉は對話でなく云はれる）

娘。すみません。すみません。私、どうしていゝのかわからないわ。ゆるして下さい。（泣く）

老人。あゝ佛樣、佛樣。あゝ、いゝよ、いゝよ、私が惡いのさ。惡いのは私さ。よく歸つて來てくれた。

兄、私は昨夜一晩寢ずにBの方を探し廻つたのさ。それでも見付からなかつたから。もう仕方がないと思つて、今朝一端家へ歸らうと思つて、T村まで來たら急に私に飛びつくものがあるから、誰れだと思つたらお絹だつた。而してお前を探して居るんだと云つたら一緒につれて歸つて呉れつて云ふから、それで一緒に歸つて來たのさ。私に合はなくともお絹は一人で歸つて來る心計でゐたんだとさ。

老人。さうか。さうか。よかつた。ほんとによかつた。私はお前の顔はもう見られないと思つて居たのた。私は、私の爲めに、お前が家出したのを知つてゐる。それで、お前が居なくなつた時から、私はどんなに苦しんだらう。私はお前にすまなく思つて居る。もつとお前の心の中も知つてやればよかつたのだ。やつぱり私が惡かつたのた。

娘。お父さん。惡いのは私よ。ほんとに私はすまなく思つてゐるの。私はお父さんに、あゝ云はれた時、隨分お父さんを恨みましたわ。お父さんが私の事を我儘者と怒鳴つた時お父さんも我儘ではないかと思ひましたわ。私はあの時すつかり迷つて居たんだわ。私は自分が子である事に呪はれてゞも居る樣な氣がしましたの。私は一途に工女になるのがいやだと思つて、他の事は何も考へませんでした。

老人。私もだ。私も私だけの事を考へてゐたんだよ。

娘。　それが惡かつたのですわね。私は家を出た時はほんとに死ぬ氣で出ましたの。再び家に歸るまい死んでも工女になるのはいやだと思つて居ました。私の足はひとりでにB

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

の方へ動いて行きました。唯夢中で丁度夕暮時分丁村迄行つた時、私は始めて疲れと饑えとを感じました。私はあすこの、街道から少し引込んだお社の緣側に腰を下ろして、疲れを休め樣としました。その中に夜になつてしまつて、あたりが眞暗になると、私は急に寂しくなつてしまつたの。私はそれに又こはくなつたの。それで急いで、前の方へと出ようしましたけれど、疲れや饑は、前よりももつと强よい力で私を其處から立たせなかつたのよ。私はもう動けない位に疲れて又饑えてゐたんだわ。私はその時、もうやけになつてしまつて、何うにでもなれ、乞食しても食べて行けると思ひ出しましたの。而して、私は私が家出をした事になんだか小氣味のいゝ樣な氣がしました。私は私がいなくなつたのに驚ろいてゐるお父さんや兄さんの事を想像して微笑んだ位でしたの。なんて私は呪はれた女なんでせう。罪の深い女なのでせう(間)けれども、それから後の私はその報いを受けました。私を恐ろしい罪の苛責がさいなみました。私の前には、お父さんや兄さんの姿があらはれました。お父さんの驚いてゐる年を老つた姿や、兄さんの心配してゐる姿が。私は自分の家出した事に、少しの口實も所依もなかつた事に氣がつき出しました。私はすぐさま家に歸りたくなりましたの。而してお父さんの顏が見たくなりました。私には疲れなぞ取拂はれた樣に勇氣が出ました。けれど夜も更けてゐたので昨夜はその儘あの社で寢ました。而して今朝歸らうとして街道へ出て見ると、丁度兄さんと會つたのです。すると私はその時迄家に歸りたいと思つて居たのに急に何となく家に歸るのが恐ろしくなつたのです。お父さんの怒りや兄さんの憤りに向ふのが恐ろしかつたのでした。それに逢ふのが道理であり乍ら、又、その下にひれ伏して十分な責めと所罰に逢ふのがあたりまへなのであり乍ら、而してそれから私の罪のお赦しを乞はなくてはならないのを知り乍ら、やつぱり是れも私の我儘から、家に歸るのをおそれて居たのです。けれども、それは一瞬でした。兄さんの姿を見た時は、なんだか夢の樣でした。いきなり飛付いてしまひましたの。私は兄さんからお父さんの、あの後の驚ろきや苦しみの樣子を聞いて私は泣きました。而して私はほんとに惡かつた事をどうしていゝかわかりませんでした。私は、私は……(泣く)

老人。いゝよ。いゝよ。もういゝよ。もうおしまひになつたのだ。もうこれでかたがついたのだ。お前も自分が惡いと思へばそれでいゝんだよ。どんな場合にも親は子をほん氣で責める氣にはなれないものだよ。殊に私の方も惡いのだからね。私は私で私の罪を知つてゐる。けれどもお前の罪と帳消しにすると云ふのぢやない。そんな勘定づくではないよ。私は互にゆるし合ふと思ふのだ。それでなくては駄目だと思ふ。私は夕、一人の旅の人を泊めた。いや私の方からも泊まつてもらつたのだ。この方がそうなのだ。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

（娘と兄初めて旅人に氣がつく、而して互に會釋をする）

この方は方々を托鉢して歩いてゐなさるのだ。而して世の中の悲しみや苦るしみや爭ひを和らけ様として居られるのだ。私は昨夜この方と種々話をした。私の心は靜められ、私は何んだか歡喜を感じた様であつた。私はあり難かつた。私はこの方にお前の歸つて來る様に祈つていたゞいたのだ。お前の罪に眼覺めたのも、お前をまだ佛さまがお見捨てにならなかつたからだ。お前はそれに感謝しなくてはならない。私は昨夜位、佛様のはつきりと感ぜられたる事はなかつたよ。私は全てを佛さまにおまかせてしまふ喜びを知つた。私は佛さまにお禮をしなくてはならない。

娘。　私も昨夜はあんまり寂しくつて何かほしかつたわ。何か私の事を導いて下さるものがほしかつたわ。而して其のお方に私は私の罪をのこらず申上げてお赦しがほしかつたわ。手前勝手の様でしたけれど。それが佛さまの見える時ではなかつたでせうか。

旅人。あゝ惠まれた人々。さうです、さうです、あなたはまつたくある信仰のお召しに出會つたのでせう。有り難い事だ。

老人。お蔭で娘が歸つて來て有り難う御座います。私は「赦」す事の喜びを初めてつよく感じました。もうこれからほん氣で働きませう。

娘。　えゝさうしませう。私もすぐAの工場の方に工女になりに行きませう。もうお父さんに心配をかける様な事は決してしません。

老人。あゝ工女になんぞならないでもいゝよ。私達は三人で暮さう。私も私が働けるまで働かう。さうする事の喜びを私は明らかに感じたのだから。お前に、お前のすかない事をさせるのは私の罪なのだ。人一人を苦しめる事になるのだからね。

娘。　いゝえ私はお父さんに働らかせるのを苦しく思ひますわ。私ば今は工女になる事が樂しく思はれますの。どうぞ工女にして下さい。私の罪は、それによつてのみ償はれる様な氣がしますから。

（沈默）

兄。　お絹はこゝに歸つて來る道にも始終さう云つてゐたのです。私もお絹のさう云ふ心持ちになつた事を嬉しく思つたのです。お父さんの、三人で一緒に樂しく暮さうと云ふのもわかつて居ます。然し私達は、お父さんの苦痛を見乍ら暮すのは、すまない様な氣がします。お絹に工女になつて貰ふ事によつて、三人に幸福が來るのではないかとも思ひます。お父さんはすでに私達の爲めに働き過ぎる程働かれました。もうお父さんの働く時ではありません。私がかはつてお父さんの爲めに働く時です、私はお絹の工女になる事に惠まれてゐる様な事がするんです。それが間違ひのない道の様に思はれます。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

老人。さうか。なんだかそれがほんとの様な氣がする。

旅人。自分が進む正しい路に、希望と喜びをもつて進まれるのはいゝ事です。其處では何事も成就し佛さまの御加護はあり、幸福は持ち來たされませう。私は娘さんの工女に出られる事を祝福しませう。

娘。あり難う御座います。私は私の行く路が、こんなに光明と歡喜で滿ちみちた事ははじめてです。私には勇氣が出、胸さへ躍る位です。

老人。有り難い。ほんとに有り難い。これも佛さまのお陰だお絹。私はお前に感謝する。私の爲めに働く、お前に感謝する。

娘。いゝえ。それか私達の路なんだわ。定められた正しい路なのでせう。

旅人。さうです。正しい路です。正しい路には佛さまは光をお投げになります。（間）もう大分日もうつりましたから私はお暇致しませう。

老人。まだお早いではありませんか。もう四五日私の處へ、こんな穢ない所ですが、お泊り下さい。私達はまだろくにお禮さへ申上げません。」

旅人。どういたしまして。お禮など受ける事はありません。私の方こそ泊めていたゞいた事に御禮を申し上げなくてはなりません。總てが佛さまのお陰である事をお忘れにならない様に。それで澤山です。

老人。でもあまりにお早やいではありませんか。兄、もう一晩どうぞ。

旅人。私は行かなくてはなりません。一日の安息がどんな恐ろしい心を私に起させるかわかりません。總てに打勝つ力はまだ私にはありませんから。

（旅人家に上つて旅裝をする）

老人。これから何處の方へお出でです。

旅人。Bの方へ行くつもりです。

老人。又、此處の方へお出になつたら是非寄つて下さい。

旅人。えゝ。又泊めていたゞきませう。

老人。どうせ御愛想もありませんけれど。

旅人。何がなくても結構です。もう泊めていたゞいただけで私は報いきれない御恩を蒙つてゐるのですから。末長くあなた方を拜ませていたゞきませう。

（旅裝がすっかりと出來て下へ降りる。）

老人。（息子に）その柿を取つて上げな。これか私達のお禮で又お土産だ。

（息子柿の實を二つ三つとる。）

老人。（娘に）何かにつゝんでお上げ。

（娘家に上つて風呂敷をもつて來る。而してこれに包んで旅人に渡す。）

老人。もう何にもない田舍です。この柿の實でもお持ち下さい。私達三人の心許りですから。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

旅人。有り難う御座います。喜んで頂戴します。

老人。では是非又お出で下さい。今度はもう御心配はかけません。私達は喜ばしい顔を揃へてお待ち致しませう。（間）然しその間に私は死ぬかもしれません。さうしたらこの子供達がお迎ひ致しますから。

旅人。あり難う御座います。私は私の泊めていた、いた事によつて、その家に不幸がもち來たされなかつた事を佛さまに感謝します。どうぞ、この美しい調和を維持しその中に皆さんが成長なすつて下さい。私にも歡喜があふれて居ます。私の修行に對する精進にもいゝ刺戟とはげみがあたへられました。私はあなた方に感謝します。

私の行手には又青い大空と黒い大地のつきない連なりがあります。その間を佛様の惠み深い光に照られ乍ら歩ませて貰ひます。では、さようなら。

老人。どうぞお大事に。

娘兄。さようなら。

旅人。さようなら。（去る）

――靜かに幕――

二〇、五、十六、脫、

熊本より

飯嶋象太郎

十一月十四日午後三時半に熊本へ着くとの御知らせを天香さんより頂いてから、私は法悅とでも名づけたい様な心地でその日を待つてゐました。恰度其の日其の時刻に上熊本驛に御迎へに出ますといつもの御姿が汽車より流れ出る人ごみの中に見えました。出迎への多くの人だちに挨拶の後、一行のうちの二三の方は中島さんと同道、汽車で鏡町へ、天香さんには私のゐる所へ泊つて頂くことになつて、一行中の相さんと御一緒に四時過ぎ宅へ着きました。

此の日は求める方には御逢ひし度いとの事であつたので、それと知つて待ち受けて居られた方々に一人一人逢はれました。其の中には御自身に問題を持つてゐなさる方々もあり、一燈園へ行き度いといふ方もあり、講演を御願ひに出た學生だちもありました。

夕食後用事のとぎれた隙を見て散髪に御案内したら、髪をつみながらの話のうちにそこの主人が「私の息子が京都へ行つてゐるといふ様なことを語り出し、その家が偶然にも一燈園へ行つてゐる」方の宅であることがわかりました。

熊本へきて最初に訪ねた無緣の店、その店の御子息が既に一燈園へ來て居られるとは「世の中は廣い様で狹いものだ」と

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

いふので一つの挿話になりました。
翌日天香さんと澤潟さんの處に泊られた相さんとは朝食前からキリスト教青年會の寄宿舎の花陵會へ行つて御掃除などをなさる。十二時過ぎには上熊本より乘車鏡町の中島さんの父上の十三年忌の法要に臨席されました。

中島さんの處を中心としての足掛四日間、それに續いて過された鹿兒島に於ける二日間、此の六日間の御消息は他に御知らせする方があると思ひます。

二十一日の午後、熊本市から八九里離れてゐる河の江村に鹿兒島がら御戻りの西田さんをお迎へしました。田舍ではあるが田舍なりに勝手の方から臺所の方まで人々が集りました。中島さんの御紹介を兼ねての御話の後に西田さんがお話をなすつて、その後に西田さんと別れ難くて途中から一緒に此の村までついてこられた感化院の世話をしてゐる方が御自分の御心持ちや實驗などを話されました。それが濟んでから西田さんは眞面目な青年だちの質問に答へられたり、特殊の問題の御相談をうけられたりして、床に就かれたのは一時過ぎでした。

廿二日は熊本市の圖書館にお迎へして、午後一時過ぎから「新しき生活」といふ題の下に約一時間半許りのお話があり、午後三時からは第五高等學校で御自分の新生活の生ひ立ちから其の生活振りなどのお話がありました。夜は教會でお話があり金光教會へ寄られ、それから七八十人も居られる郊外の貧兒寮へ行つて又お話がありました。西田さんが其處へ見へた頃は、夜も更けたので五ツ六ツ程の小さい子供たちの方は小さい頭を並べて眠つてゐました。

二十三日も二十四日も同樣にお忙しい中に過されました此の二日間の御樣子は御案內して下すつた方に御便りして頂き度いと思つて居ります。

とにかくお忙しい活動の裡に二十四日午後四時過ぎ上熊本驛から乘車大牟田へ向はれました。私は特に「活動の裡に」と書きます。それは泊る處でも停車場へ行く道の上でも絶えず求める人だちとの接觸應答のうちに過されましたから。十四日から二十四日迄、初めて踏んだ南九州の地に於て過された十日間に、眞に目に見えて顯はれる程の、或はそれ程でなくても人々の心の奥に多大の感銘を殘されたことは申し上げる迄もありません。それと共に御一行の托鉢振も深い印象を與へた事と思ひます。學生のうちにも學校をすてゝ西田さんの許に走つた人々もありました。

一燈園だより

霜葉二月の花よりも紅ならんとする鹿ケ谷の秋は、信州及び下毛方面の遊歩から六日の夕歸られた天香さんの一行を迎へて更に一段の光影を添へられた。二ケ月半餘、天香さんの

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

留守を佗しく園に在つて托鉢して居られた數多の人の中には、淋しい淋しいと云つて一種の物足らぬ感じを懐いたまゝ去つた方も可成に多かつたやうであるが、一旦結ばれた因緣は不可離の攝理に依つて長しへに不二門の中へと融會されるであらう。

七日八日の兩日は特別な托鉢先を除くの外大抵休息して反省させて貰つたが、一同天香さんを中心に取り圍んで己がじゝ眞に生きんとする血路を覓めた結果、未解決のまゝ再び障り多い火宅へ戻つて行く方もあつたが、大方は暫く入園と決定された爲め園の空氣も大分落ち付いて來た。

當番は相變らず相さんで、金川さんは當番さんを助け乍ら宣光社の方に奉仕を續けられて居る。小林さんは建仁寺の鐘撞き男となり濟まし、郷里から歸園された古川さんは近く一年志願兵として入隊される。谷野さんは郷里の方から既に歸園の途に上られた消息に接して居るが、容易に其の姿を現はさぬ所を見ると未た朔風荒ぶ北越の空に行き惱んで居られるのであらう。伊藤祐之さんは未た郷里の方の整理に沒頭して居られる。立山さんは何を感じてか飄然托鉢先を去つて十字街頭に出られたまゝ其の蹤跡を昧まして了はれたが、多分一身上に關する葛藤を裁斷するため京都附近の何れかに聖胎長養して居られるのであらう。河瀨さんは尙は舊の如く叡山の風月と親しんで居られる。福田さんは漸く嚴父の諒解を得て更に托鉢を續けられる事となつた。木暮さんは濟世病院の方に托鉢せられ、九月前後に入園された若狹の藤田鐵次郎さんと、東京の中村無外さんは尙ほ孜々として精進して居られる。李命錫さんは郷里の方の整理上先頃歸鮮された。

婦人の方では、勝淳さん、お民さんは每のやうに先達として奉仕せられ、久しく大德寺玉林院の方で長養されて居た澁谷ふさ尾さんも此の頃歸園せられ、內田よし子さんは實家へ歸られる事となつた。今村德子さんは神戸の香爐園へ病人の看護に行つて居られるが近く新しく入園された鎌倉の引地富子さんと交代される。

今度天香さんのお歸りを俟つて新しく入園された方では、愛知の鬼頭鎭雄さん、大分の龜井潤司さん、熊本の古川節夫さん、長野の村澤重夫さん、熊本の吉田智さん、大阪の多喜二郎さん、田中菅次さん、京都の濱田市太郎さん、長野の宮澤幸次郎さん、廣島の宗藤中さん等である。婦人の方では群馬の高橋みゆきさん、都丸みさをさん等である。

『懺悔の生活』が出版されてから天下到る所に其の波紋を生じ、園を訪づれる方は常に日々少くとも三四名を下らず、天香さんがお歸りになられてから毎日二三十名のお客さんが見えられる。殊に其の影響は經濟的方面よりは寧ろ敎育的方面に大きいものか、可成學生さん達も多いけれど小學校、女學校、中學校等の諸先生も尠くは無かつた。も一つ著しい現象と見るべきものは、近時動搖の甚しい婦人界の覺醒を反映するものが、うら若い女性の方の次第に增加して來た事である。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

斯くして京都の一燈園の突然一種の中央機關とも謂つべき意義を具備して來たが、其の是非の論は今姑く措き、これ迄隱れて居た一燈園の存在が漸く天下の視聽を聳動せしめて來た今日、園の根本基調が全く同人の眞劍なる托鉢に依る純粋な祈りである事を夢忘れてはならぬ。而して一面宣光社の使命も漸く複雜になつて來たが、複雜になれば勢ひいろいろな障害が其の前途に横はつて來る。一體それを何うして切り抜けるか、將又、何う云ふ暗礁に乘り上げるか、其の結果は全く未知數である。要は唯同人の眞劍なる祈りに頼つて一切の解決を大いなる「光」の前に任すより外は無い。

此の月の半ば頃から又大香さんは各地から仰慕して來る求道者達の懇請に招ばれて九州方面に赴かれるが、定めし『光』の閃きが所有る方面に顯現されるであらう。希くば十字架の使命重き此の行の上に幸あれと唯祈るのみである。

（大正十年十二月初旬）

M N 生

返照錄

◉**張谷個一郎**兄（千葉縣野田町中ノ臺同胞院）

謹んで新年の御慶を申上げます。

いつも怠りがちにしてをりました。なんとも申しわけのないことです。あなた樣におわびをいたしますにつれ、一切の人にも、天にも地にも、罪のゆるしを乞ひたい心が切です。新らしい年をかうした切な懺悔の心で迎へました。

わたくし舊冬おしつまつてこの町へ來、新らしい家をつくつて一つの診療院を設けました。どうかしてこの家を多くの兄弟達にさゝげさしていたゞきたいと願うてをります。その家はわたしの家でなく凡ての兄弟達の家であることをはつきりさしたいと思ふのであります。この心願がどの位ひの程度迄實現できるかはいのりの深みによつて決せられるのでございます。わたくしのこのいのりがいつも正しき道の上にあるやうどうかおいのり添へ下さい。大正十一年一月元旦。

◉**宮崎安右衞門**兄（東京代々木）　謹賀新年

神と人とにより深く愛されん爲に噫。自分は不本意ながら隱遁を公けに致します。

お寒うございます。お變りもありませぬかおたずね申あげます。私は神樣を始めとして皆樣より一方ならぬおめぐみを受けました事と感謝せずにゐられません。さてこの度代々木草房を（大正十年十二月二十六日限り）閉づることと致しました。（解散ではありませぬ。）理由は別に是ぞと言ふ深い仔細はムいませぬが、少々感ずるところがありまして、どうしても閉鎖して對社會的に働らきかける事を止めなくては生きられないやうになつたのであります。この事は決して自分ひとりの安

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

けさを求むる爲の退隱ではありません。そして、ここ數年否數十年間（神が自分を世に送り出し給ふまで）世と人との接觸を脱れて純粹に祈禱と冥想との孤獨裡に深くも潜行密用を遂げ度いといふ願望でムります。此の願ひはまことに私にとつてエゴッシュな恥しさを覺えますが、何卒幾重にもおゆるし下さるやう、そして憫れみ下さるやう一偏に合掌跪拜致します。で今後はどなたさまに對しても面會や訪問又は一切通信を辭慮致しまする故、あしからず思召のほどお賴み申ます（但し年一回或は年二回の拙作に依つて私の近況を御報する事があるかも知れません。私としては御報しない事を希みます。）斯うした孤獨隱遁的な生き方は、よいことか、よくないとか、私にはそれがハッキリとは解りませぬが、今の私にはさうせずしては一日たりと晏如として居る事が出來ないのであります。熱としてゐるとの能きぬ必然さが沸々と湧きあがつて居るので御座ります。噫！　朽ちてゆく儚ない世の相や亡びゆく流轉の世に一刻も自分を任せて置くことが能きなくなりました。まことに凡てはそらごとたはごとであるてふ親鸞聖人の御感慨をつくづくと想はせられます。或は厭離穢土欣求淨土と云つた法然上人やアッシジの聖フランチエスコの我等は順禮の如く旅人の如し——。を誦することは、ああ迚も涙せずにはゐられません。現世の轉々として移りゆく慌しい空しい相に、餘りに私が囚はれ過ぎてゐる事を見出して愕然として戰慄します。あゝそは餘りに自分の靈魂を侮蔑した悲しい嘆きであります。そして私の靈魂の扉を叩いて呉れたものは、

　我等は死すべき者也——。

我等は死すべきもの、本當です實に本當すぎるほど本當な言葉です。今の私には『後生事大』の一義のみが全心を占領してゐます。ヨハンネス、タウレルやエックハルトが靜かに強く教へて呉れました。『神は孤獨の中に見出される——。』と。聖オーガスチンは『神を見出す迄はわが靈魂落ちつかぬ』と。更に聖ポーロは云ふ。『靜かにすれば救ひを得——。』とあの法然上人が淋しい沙漠のやうな黒谷の隱栖所で二十餘年の沈默、さては六祖慧能や勞働僧教信の隱れたる聖行を偲び出すことに、劣機鈍根な私の心も異常に勵まされ慰められまする事をおぼえます。極重惡人の自分が古聖先達を對象とする事はまことに出すぎた仕業呆れ果てた痴者でムります、卯の毛ほども善行の能きぬ自分が淺ましい姿を隱遁に覆はうとする私を笑つて下さい。否私は充分諸君の笑殺に値する醜き者なのでムります。噫人戀しい私が人を離れることは堪へ難い苦しみであります。おさつし下さい——。では是を最後の通信として貴方に私の想念をお知らせ申す次第なのでムります。

　貴方の上に救主基督の祝福を永遠に祈ります——合掌。

編輯者より

○本號もまた發行が遲れたるのみならず。種々の事情のため校正も思ふにまかせず。數々の不體裁、而目次第もございません。偏に御ゆるしを願上げます。

○本號表紙の題字は、文學博士大西祝先生の短册『何處より通ふ光ぞ天地を照らす月日の美はしき哉』より頂きました。

大正十一年一月三十日印刷　（代金二十錢）
大正十一年一月三十一日發行　（郵送料不要）
東京市牛込區原町三丁目五十三番地
編輯兼發行者　中桐確太郎
東京市神田區仲猿樂町十七番地
中外印刷株式會社代表者
印刷者　渡邊市太郎
東京市牛込區原町三丁目五十三番地
發行所　東京宣光社

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

謹告

事務整理の都合上、本雜誌の發送及び代金の收受等に關することは、一切、左記にて取扱ふことに致しました。隨て是まて東京宣光社にて御預り申してをりましたものは皆、移渡しましたから、さやう御諒承下さいまし。

京都市柳馬場三條下ル　宣光社　（振替口座大阪五九八三九番）

但し雜誌編輯の事は尚ほ暫く從來の通りに致して置きますから、編輯に關する御用はやはり、

東京牛込原町三の五三　東京宣光社

に宛てゝ御申越し下さいますやう御願ひいたします。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

木村毅譯

アミエルの日記

上卷出來　定價金貳圓　送料金拾四錢

村岸清彥著

十字架の人ウェスレー

價壹圓九拾錢　送料金拾貳錢

宮島新三郎著

近代文明の先驅者

定價金壹圓七拾錢　送料金拾貳錢

全譯・新刊

トルストイは本書を一讀するや感激の餘り、愛女をして露譯せしめたり。ルナンはアミエルを目して聖者の彿ある哲人と呼びぬ。アルプスの麓、ゼネバ湖の傍り或は嶺ゆく雲にそぞろの思ひを寄せ、或は晨夕の鐘の音に熱き祈りの涙を灑ぎて、ひたすら神と眞理とに仕へたる彼が三十年の生涯の、高貴なる思索と瞑想とは此の一卷に凝縮さる。

新刊

クリスマスの鐘、霜夜の空に鳴り響くを聞かずや。基督の生る丶、何ぞ時の一九二一年昔なるを要し、地のベツレヘムなるを俟たん。現世の日本に於ては基督は吾々各人の胸裡の馬槽に生れ給ふべき也。吾等が今、メソヂスト教祖と言はれ、十字架を負ひて地上に神の國を建設せしウェスレイを仰ぐは基督がウェスレイを假りて十八世紀の英國に生れ給ひしを知れば也。

好評・再版

ホルムスヒールドは遠く人寰を絕せる仙境にして老樹の天を摩せる所、幽禽の聲に耳を傾けつ丶ある老翁あり。これ二十世紀の老豫言者と稱せらる丶カアペンタア也。彼の思想には幽玄味頗る東洋思想と酷似し、將に來るべき精神文明の先驅者を以て目さる。本書は宮島氏が多年の研究によりて、彼の隱者的聖生活と思想とを論述せしもの、處女の如き慕ひに充てる筆致は[illegible]界渴仰者を醉はしめん。

發行所　東京市神田區表神保町一〇　春秋社

（振替東京二四八六一　電話神田二一三八）

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN